

# ゴク・ロデンシェーラプ著『書簡・甘露の滴』

## —校訂テキストと内容概観—

加 納 和 雄

はじめに

チベット仏教後伝期 (phyi dar) における思想体系の形成を解明するためには、その黎明期 (11-14世紀) に著された文献の原典研究が必要不可欠である。特にサンブ・ネウトク寺において確立された学問的伝統は、チベットのあらゆる学派に著しい影響を与え続けたことが知られている<sup>(1)</sup>。しかしサンブ寺の学者たちの著作の多くは散逸したといわれていたために、これまでの研究においては、後代のテキストにおける引用を回収してそれによって思想体系を再構築するという方法が主に採られてきた<sup>(2)</sup>。この方法は、失われた著作のおよその思想傾向などを想定するには有効であるが、テキスト全体の復元や原典の厳密な検討などには向かない。

ところが近年、ラサのペルツェク研究所がデブン寺の十六羅漢堂 (gNas bcu lha khang)、ミワン堂 (Mi dbang lha khang)、クンガラワ (Kun dga' rwa ba) を調査した結果、それらの著作を含む多数の古書がそこに所蔵されているのを発見した。発見された古書は目録化され、『デブン寺古籍目録』として2004年に北京において出版された。サンブ寺の学者たちの著作を含む稀書は、主に十六羅漢堂に収められていた。十六羅漢堂は、デブン寺の大集会堂の二階部分に位置し、ダライラマ五世の私蔵書が収められている。蔵書のうち、外部から持ち込まれた典籍には表紙に Phyi「外」の記号が、そしてデブン寺内部の典籍には表紙に Nang「内」の記号が記されている。このうち外部から持ち込まれた典籍は、カルマ派の寺院をはじめとする諸寺から回収されたものといわれ、その中に多数の貴重書が含まれている<sup>(3)</sup>。

『カダム全集』について

デブン寺十六羅漢堂に所蔵されている文献のうち、カダム派の文献をまとめた『カダム全集』(第1輯、全30巻)が、このたび2006年6月、同ペルツェク研究所より

(1)

成都において出版された。全集はペチャの体裁をとっており、テキスト本文は写本原本の影印版 (facsimile edition) である<sup>(4)</sup>。収録作品131点のうち、およそ84%に相当する110点はデプン寺十六羅漢堂において発見された写本である。そのほか、セラ寺から6点、ギャンツェ・ペンコルチューデから4点、ラサ・チベット図書館 (Bod ljongs dpe mdzod khang) とデプン寺ゴマン堂から各1点ずつ、タシワンギェル氏の蔵書から3点、ツルティムギェルツェン氏の蔵書から4点、大谷大学の蔵書から1点、TBRC (The Tibetan Buddhist Resource Center) の蔵書から1点の写本が収録されている<sup>(5)</sup>。同全集にはサンブ寺の学問的伝統を大成、伝承、展開した碩学たちの著作が主に収められ、そのほとんどは題名のみが知られてきた作品、もしくはその存在すら知られていなかった作品である<sup>(6)</sup>。20世紀初頭にはアムド地方ラプラン・タンキル系のゲルク派学僧たちが、稀書を木版として開版することに尽力して偉大な業績を残したが、カダム派の稀書は僅か数点が開版されたに過ぎず、多くは依然として入手困難な状況にあった<sup>(7)</sup>。その点で今回の『カダム全集』の出版は歴史的にも大きな意味をもっている。

全集に収録される作品は顕教文献が大半を占め、若干の密教文献や伝記などが含まれる。十六羅漢堂の各写本の表紙には各文献のジャンルを示す整理番号が付されている<sup>(8)</sup>。それに従えば、全集には「般若部」(Phyi Tsha) が32点、「中観部」(Phyi Tsa) が27点、「目録関連、道次第、ロジョン」(Phyi La) が23点収録され、その他24点は各ジャンルに散っており<sup>(9)</sup>、残りの33点は整理番号を欠く。全作品のタイトルは『カダム全集目録』に列挙されるが、その全容については、本稿末尾に提示した作品リストを参照されたい。

なお全集には編者による各著者の伝記が附され、いくつかの作品には科文が提示されており、便利である。ペルツェク研究所は、今回出版された『カダム全集』第1輯に続き、第2輯の出版を準備している<sup>(10)</sup>。

本稿筆者はこれまでサンブ教学における『宝性論』の受容と展開の研究に携わり、とりわけその教学の大成者ゴク・ロデンシェーラプ (1059-1109) の手になる『究竟論要義』の解説を続けてきた<sup>(11)</sup>。同作品は難解であり、それを理解するためにはロデンシェーラプ自身の思想体系を十分に把握しておく必要があるが、多くの著作が散逸していたためにそれが久しく適わなかったのが現状であった。ところがその状況は、彼の自著9点を収録する『カダム全集』の出版によって大きな転機を迎えることになった。その中には彼の思想的立場を手短に要約した『書簡・甘露の滴』(sPrings yig bdud rts'i thig le) が含まれている。本稿ではこの作品の全体像を解

明するために、校訂テキストを提示し、その内容を概観したい。なお訳註篇については現在準備中である。

作品の検討に入る前に、このたび『カダム全集』において現存することが確認されたロデンシェーラブの9点の著作について触れておきたい。

### 『カダム全集』所収のロデンシェーラブの著作

ゴク・ロデンシェーラブ (1059-1109) は、大翻訳師 (Lo chen)<sup>(12)</sup> の通称で親しまれた、 Samp・ネウトク寺の学問伝統の実質的な大成者であり、同寺院の創設者ゴク・レクペーシェーラブの甥にあたる<sup>(13)</sup>。ロデンシェーラブはカシュミール、東インド、ネパールに留学し、数々の文献をチベット語に翻訳した。彼の主な功績は、膨大な量のテキストを翻訳によってチベットにもたらし、「中観自立論証派」、「弥勒五論」、「因明」の伝統を体系的にチベットに伝承した点にある。1092年、留学を終えて17年ぶりに西チベットに戻った後は、ネパールを訪れ、最終的には中央チベットをその活動の拠点とし、そこにおいて Samp 寺座主となって自身の教学を大成し、ラサ、サムイェー、ツァン、ニェル (gNyal) などにおいて教学の宣布に努めた<sup>(14)</sup>。

さて、『カダム全集』に収録されるロデンシェーラブの著作は以下の9点である<sup>(15)</sup>。

- (1) *Dag yig nyer mkho bsdus pa*. 9 fols.
- (2) *Shes rab snying po'i rgya cher bshad pa*. 4 fols.
- (3) *mNgon par rtogs pa'i rgyan 'grel rin po che'i sgron me*. 39 fols.
- (4) *mDo sde rgyan gyi don bsdus*. 24 fols.
- (5) *dBus dang mtha' rnam par 'byed pa'i don bsdus pa*. 13 fols.
- (6) *Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos kyi don bsdus pa*. 40 fols.
- (7) *Rigs thigs 'grel pa dang bcas pa'i bsdus don*. 12 fols.
- (8) *Tshad ma rnam par nges pa'i dka' ba'i gnas rnam par bshad pa*. 144 fols.
- (9) *sPrings yig bdud rts'i thig le*. 2 fols.

このうち、これまでに出版されていた作品は、(1)『正書法要義』、(3)『現観莊嚴論要義』、(6)『究竟論要義』、(8)『知識論決択難語積』の4点である。(1)は同一写本の影印版が『藏文史料彙編』(*dPyad gzhi'i yig cha phyogs bsgrigs*) 第三輯第六

巻に含まれ、すでに出版公開済みである。一方、(3) (6) は木版印刷本の影印版が、そして (8) は写本に基づいた活字本がすでに出版されているけれども<sup>(16)</sup>、『カダム全集』に収録されるのはこれらの作品の別写本であり、従来知られていたものよりも古く、価値の高い写本である。したがって先ずは、(3) (6) (8) の写本の書誌的価値について論及したい。

(6)『究竟論要義』の木版印刷本(1918年開版)は1993年に影印版が刊行されたが、テキスト上の問題を多く含んでいた。その奥書によると、木版開版に際して版木底本(par yig)を作成するために用いた唯一の古写本(ma phyi bris rnying)が、重複や省略などの誤りを多く含んでいて、校閲者ルブム・シェーラプギャムツォ(1894-1917)がそれを校正するのに難儀した旨が記される<sup>(17)</sup>。Kano 2006において本稿筆者は、『究竟論要義』を木版印刷本に基づいて校訂したが、いくつかのテキスト上の問題が未解決のまま残されている。この問題を解決するためには、今回出版された全集所収の写本(タシワンギェル氏所蔵本)を校合して『究竟論要義』を再校訂する必要があり、その作業は目下進行中である<sup>(18)</sup>。

(3)『現観莊嚴論要義』を読解するためにも木版印刷本と写本を校合する必要がある。当版本はグンタン・ロドゥーギャムツォ(1851-1930)が校閲し、1910-1920年代に開版されたが、その奥書には次のように記される。

かつて〔私は〕アムド、ウー、ツァンを隈無く探し求めたが、〔『現観莊嚴論要義』の〕写本は得られなかった。そして一切知者ジャムヤンシェーパの図書館から写本を得て、それに基づいて〔底本を〕書写した。しかしながら、再度、これを求める方々が、〔将来〕良質な写本を得たならば、〔校合しながら〕詳細に吟味して頂きたい<sup>(19)</sup>。

全集所収の十六羅漢堂の同写本影印版は、この版本校閲者ロドゥーギャムツォの期待に沿うべく公開された貴重な新出写本といえる。

そして、(8)『知識論決択難語釈』は民族文化宮所蔵の古写本に基づいて1994年に活字本が出版されたが、その写本は第1葉を欠いているために冒頭箇所が抜け落ちている<sup>(20)</sup>。一方、このたび公開された全集所収の写本(セラ寺所蔵本、132葉)には第1葉が含まれ、これによって冒頭の欠損箇所を補うことができる<sup>(21)</sup>。ただしこの写本は末尾10葉ほど(第133葉以降)を欠いている<sup>(22)</sup>。なお、この写本は現在セラ寺に所蔵されるが、1993年9月の時点では活字本の底本とされた写本と共に民族文化

宮に所蔵されていたことが、van der Kuijp の記述によって確認できる<sup>(23)</sup>。そして写本の表紙に記載される整理番号 Phyi Zha が、十六羅漢堂所蔵の因明部所属写本であることを示唆するため<sup>(24)</sup>、写本は北京に渡る以前は十六羅漢堂に保管されていたものとみられる<sup>(25)</sup>。

さて、今回新たに公開されたロデンシェーラプの著作は5点ある。そのうち、(2)は『般若心経』の註釈、(3) (4) はそれぞれ『大乘莊嚴經論』<sup>(26)</sup>、『中辺分別論』の要義であり、(7) は『正理一滴註』への註釈である。なお全集編者は(7)を『知識論決訳要義』とするが誤りである(下掲註63参照)。これらの詳しい内容については今後の研究が待たれる。

ロデンシェーラプの著作はその弟子トルンパによると43点あるといわれ<sup>(27)</sup>、さらに他の資料によると8点の著作名が確認できる<sup>(28)</sup>。これら都合51点のうち、現在発見されているものはわずか11点に過ぎない<sup>(29)</sup>。

『カダム全集』にはそのほかにも、7点のトルンパ (Gro lung pa Blo gros 'byung gnas) の著作<sup>(30)</sup>、18点のチャパ (Phywa pa Chos kyi seng ge, 1109-1169) の著作<sup>(31)</sup>、9点のツァンナクパ (gTsang nag pa brTson 'grus seng ge) の著作<sup>(32)</sup> や、5点のリンチェンサンポ (Rin chen bzang po, 958-1055) の著作<sup>(33)</sup>、2点のパツァプ (Pa tshab Nyi ma grags, b.1055) の著作<sup>(34)</sup>をはじめ、多数の貴重書が収録されているが、その全貌を解明するためには個々の作品を一つずつ精読していかねばならない。本稿ではその作業の手始めとして、ロデンシェーラプ著『書簡・甘露の滴』に焦点を当てる。

## ロデンシェーラプ著『書簡・甘露の滴』

ロデンシェーラプの著作『書簡・甘露の滴』(*sPrings yig bdud rts'i'i thig le*) は従来、彼の著作目録<sup>(35)</sup>や他文献における引用からのみその存在が断片的に知られていたが、このたび、その写本の影印版が出版されたことによって、ようやくその全貌が明らかとなった。本作品は合計28の韻文で構成された小部の作品であるが、同著者の思想的立場が顕著に表明されており、後代の学者たちによってたびたび引用されてきた。たとえば、ロンチェンパは法身を定義するために同作品の第24偈を引用し<sup>(36)</sup>、ツォンカパとタクツァンパは中観学派の如幻派と無住派という二分類に言及するために第14偈の一部を引用している<sup>(37)</sup>。

『書簡・甘露の滴』にはシャーキャチョクデン (gSer mdog Paṅ chen Shākya

mchog ldan, 1428-1507) による註釈『甘露の滴註』が存在し（1500年成書<sup>(38)</sup>）、後述するように、これによって都合17の偈を復元することができる。この註釈は、同書の凝縮された難解な文章スタイルを読み解くために益するところが多い。また同註釈は様々なインド撰述文献を引用しており、『書簡・甘露の滴』に説かれる思想体系の典拠を確認するために非常に参考になる。ただし、しばしば註釈者自身の立場からの解釈が施され、本来の著者の意図を逸脱する場合がみられるので注意が必要である。

## 著作目的と著作年代

写本奥書には次のようにある。「ガトン・シェーラプタクなど<sup>(39)</sup>、ツォンカ地方のルスムの僧伽に宛てた書簡、『甘露の滴』、完」(rga ston shes rab grags la swogs pa gtsong kha ru gsum gyi dge 'dun la spring pa'i yi ge 'dud rtsi thig le zhes bya ba rdzogs s-ho)<sup>(40)</sup>。「ツォンカ」とは、ツォンカパ (Tsong kha pa Blo bzang grags pa, 1357-1419) の出身地である、現在の青海省アムド地方の湟中県を指すと思われる。そして「ル」(ru) とは「翼」と訳されることもある行政区画の単位である。しかし「ツォンカ地方のルスム」の具体的な位置については未比定である<sup>(41)</sup>。いずれにしても同書簡が、チベットにおいて僧伽に宛てて著されたものであることは、この奥書と同書簡第11、28偈から明らかである。すなわち同書がチベットで著されたことは第11偈によって知られ、師の教えを弟子たちに広めることを目指したものであることは第28偈によって知られる。

ここ〔チベット〕に〔インドから〕やって来たパンディタと呼ばれる者たちの大半は論典に通じておらず、自らの悪しき見解によって〔人々を〕導き、二つの極端を求めて正しい道を排斥するので、彼らのことばのせいで、龍樹に説かれた道を捨てるなかれ。(第11偈)

大乘の教えの集まりという酪より生じた、師の伝授により得られたこの甘露を利他の方向に広めるべく、書簡というかたちで著し、あなたに献上します。(第28偈前半)

第11偈に現れる文言「ここに」('dir) がチベットを指すことは、文脈およびシャーキャチョクデンの註釈にもとづいて確定できる<sup>(42)</sup>。第28偈に現れる文言「あなた」

(khyed) は、奥書所説のガトン・シェーラプタクをはじめとする僧伽聚を指す。ロデンシェーラプがチベットにおいて布教に力を注いだのは、彼の晩年の17年間、すなわち1092-1109年頃であり、本書はこの時期に著作されたものと推定される。

## 写本について

『カダム全集』所収の『書簡・甘露の滴』の写本は、ペチャの体裁で、2葉からなる完本である。『デプン寺古籍目録』(p. 1635)によると写本1葉の大きさは60.5×9.5 cm とされる<sup>(43)</sup>。第1葉目表面には、「ゴク大翻訳師ロデンシェーラプによる書簡・甘露の滴」(rngog lo chen po blo ldan shes rab kyis spring yig bdud rts'i'i thig le lags s-ho) と表題が記され、その上部には同一筆記者の手によって整理番号(Phyi La 281) が記されている。記号 Phyi はデプン寺外部からもたらされた典籍を意味し、記号 La は「目録関係、道次第、ロジョンなど」(dkar chag skor dang lam rim blo sbyong sogs) のジャンルに所属することを意味する<sup>(44)</sup>。整理番号は、ドライラマ五世が十六羅漢堂に古写本を集めた後に加筆されたものである。これは速記体で記されるが、第1葉裏面から始まる本文に用いられるウメ文字とは明らかに異なる。本文のウメ文字には省略文字がしばしば使用される。また、写本第1葉裏と第2葉表はそれぞれ9行からなり、第2葉裏は1行で終わっている。

## 校訂に際して

写本は上記のデプン寺写本一本が知られるのみであるが、それ以外にシャーキャチョクデンの『甘露の滴註』から都合17の偈が回収でき、それをもとにデプン寺写本の読みを訂正できる場合がある。すなわち(以下、括弧内は『甘露の滴註』の頁数を示す)、第10偈(322.7-323.1)、第11偈(327.3-4)、第12偈(329.2-3)、第14偈(334.1-2)、第15偈(335.4, 336.3)、第16偈(337.2-3)、第17偈(337.4-5)、第18偈(337.6-7)、第19偈(337.7)、第20偈(338.1-2)、第21偈(339.1)、第22偈(339.2)、第23偈(340.3)、第24偈(340.4-5)、第25偈(340.6-7)、第26偈(341.3)、第27偈(341.7)については、その全文が回収できる。一方、第1偈から第9偈(321.3-322.4)と第28偈(347.7)は各偈の初頭句数音節のみが回収でき、第13偈(332.1-6)は単語単位でパラフレーズされるために断片的にのみ回収できる<sup>(44a)</sup>。

シャーキャチョクデンが使用した写本は、その冒頭にデプン寺写本に含まれない

帰敬文 ('jig rten dbang phyug ... ) を含み<sup>(45)</sup>、偈頌本文の読みもしばしば異なっているため、異なる写本伝承に属していた可能性が高いが、一方では彼が恣意的に読みを訂正した箇所が混在している可能性も否定できない。その点を考慮し、校訂テキストにおいては写本原本の読みをできる限り優先させた。なお偈頌の分け方はシャーキャチョクデンの科文を参考にした。



རྗོན་ལོ་ཚེན་པོ་སྐོ་ལྷན་ཤེས་རབ་ཀྱི་སྤྱིང་ཡིག་བདུད་རྩི་འཕྲིན་ལེ།

(1a1) དད་པའི་གཞི་བརྟན་འདུན་པའི་རྩ་བ་བཟང་པོ་ཅན།།  
སེམས་པའི་རང་བཞིན་བསམ་པའི་སྤྱིང་པོས་རྣམ་མཛོས་ཤིང་།།  
བསྐྱབ་པའི་མེ་ཉོག་རབ་རྒྱས་བསྐྱབ་པའི་གྲིབ་བསེལ་ཅན།།  
གཞན་དོན་འབྲས་བུ་མང་ར་ལྷན་འཕགས་པའི་ལྷོན་ཚོགས་ཁྱེད།།?

རང་བཞིན་མཁར་གནས་ཚུལ་མིན་ཡིད་བྱེད་<sup>(1a2)</sup> ལྷུས་སྐྱུལ་བ།།  
གཏི་མུག་སྤྱིན་ཚོགས་ཆགས་པའི་སྐོག་གི་ལྷིང་བ་ཅན།།  
ཞེ་སྤང་འབྲུག་སྐྱེ་ཆེས་ཆེས་སྐོགས་པ་ལས་འཐོན་པ།།  
ཉེས་སྤོད་གནམ་ལྷགས་འབར་བས་ཕོག་པར་མ་གྱུར་ཅིག།?

སྐྱེ་བའི་རྗེས་འོངས་ན་དང་ཀ་བའི་མཆོ་རྗོན་ཅན།།  
མི་རྟག་ལུས་ཅན་འཆི་བདག་སྤྱིན་པོ་ལྷར་འོངས་ནས།།  
(1a3) རན་འགོ་སྐྱེ་གནས་སྐྱུག་བསྐྱུལ་སྐྱེ་ཆེན་མཐའ་ཡས་པར།།  
སྐྱེ་བའི་ཚོགས་འདི་དབང་མེད་ཁྱིད་ཅིང་ངེས་པར་བསམ།།?

སྐྱུག་བསྐྱུལ་མང་ལྷན་འདི་འདྲའི་གཡང་ས་དྲན་བྱས་ནས།།  
བག་ཡོད་སྐོབ་སྐྱེད་ལུས་དང་སྐོག་ལ་མི་ཡངས་ལྷར།།  
ཉོན་མོངས་དབྱ་ཚོགས་གཞོམ་ལ་ལྷོད་པ་མེད་ཡིད་ཀྱིས།།  
བརྩོན་པའི་<sup>(1a4)</sup> གོ་བཤོས་བཟོད་པའི་སྤྱན་ནི་ལེགས་གཟུང་བ།།?

འཆི་བདག་དཔུང་འཛོམས་སྐྱུག་བསྐྱུལ་རྒྱ་མཚོ་སྐྱེ་བྱེད་པ།།  
བདེ་བའི་འབྲུང་གནས་རིན་ཆེན་བྱང་རྒྱུ་སེམས་སྐྱེད་དེ།།  
བདག་དོན་ལྷུར་བྱེད་སྤྱིད་དང་ཞི་དགའི་སྐྱེ་བོ་ལ།།  
དམན་པར་ལྷས་ནས་སྤྱིང་རྗེའི་ཡུལ་དུ་གཉིས་ཀ་བཞག།?

ཐར་པའི་ཁང་བཟངས་<sup>(1a5)</sup> ལ་རོལ་ལྷིན་དུག་ཐེམ་སྐྱས་ཅན།།  
བག་ཆགས་སྤངས་པའི་རབ་བརྟན་པོས་ཡོངས་སྐོར་བ།།  
ཡི་ཤེས་རྩིག་པ་གཞན་དོན་རྗེ་སྐྱས་མཛོས་པ་དེར།།  
བདག་ཉིད་འཛོགས་ནས་གཞན་ཡང་དྲང་བའི་ཐབས་ལ་འབད།།?

སངས་རྒྱལ་བསྟན་པ་སྤྲུལ་བསྐྱེད་ཀྱི་ལྷན་པའི།  
བདུད་རྩི་མཚོག་འདི་སྟེང་ནས་<sup>(1a6)</sup> དོན་མེད་མི་འགྲུར་གྱིས།  
ཐུབ་མཚོག་གྱིས་བཅས་བསྐྱབ་གཞི་རྣམས་ལས་མི་འདའ་བར།  
བརྟེན་ལུགས་ལེགས་བསྐྱེད་བཤེས་གཉེན་བཟང་ལ་རབ་རྟེན་བྱ།།<sup>7</sup>

ཚོས་སྟོང་ལ་ཚོན་ཡིད་བཞིན་གཞན་དོན་སྤྱོད་ལེན་པས།།  
འགོ་བ་དད་གྲུར་དམ་པའི་སྟོང་པ་རྗེས་སུ་སྟེན།།<sup>8</sup>

བཤེས་གཉེན་སྟོན་ལས་ལེགས་བྱུང་མང་དུ་<sup>(1a7)</sup> ཐོས་པ་ཡི།།  
ཆར་རྒྱུན་བསེལ་བས་ཉོན་མོངས་གདུང་བ་ཞི་བྱེད་གྱིས།།  
བདེ་གཤེགས་སྦྱིང་པའི་ས་བོན་རབ་ཏུ་བརྒྱན་བྱས་ནས།།  
སངས་རྒྱལ་ཡོན་ཏན་སྟོན་ཚོགས་ལོ་ཏོག་རབ་རྒྱས་བྱ།།<sup>9</sup>

ཚོས་རྣམས་རང་བཞིན་སྟོང་པའི་ཚུལ་ལ་འཇུག་པའི་སྟོ།།  
ཡང་དག་རིགས་ཚོགས་ཀྱི་སྐྱབ་ཞལ་ནས་གསུངས་པ་དེ།།  
རིགས་པའི་དབང་<sup>(1a8)</sup> ལྷུག་རྣམ་འགྲུལ་མཛེད་པའི་གཞུང་མཛོས་ལས།།  
གསལ་བར་རྟོགས་ནས་ལུགས་རན་གཞན་ཀྱི་རྩ་བཞིན་དོར།།<sup>10</sup>

པརྟེན་ཏེས་རབ་བྲགས་འདིར་འོངས་པའི་ཆེར་ཡང་།།  
གཞུང་ལུགས་མི་མཁས་རང་གི་ངན་རྟོག་གིས་བྲིད་ཅིང་།།  
མཐའ་གཉེས་ལ་འཆེལ་ཡང་དག་ལམ་ལ་སྤྱོད་འབྲིན་པས།།  
དེ་<sup>(1a9)</sup> དག་ཚོག་གིས་སྐྱབ་བྱིས་བཤད་ལམ་མི་འདོར།།<sup>11</sup>

དོན་རྣམས་རིགས་པའི་སྟོབས་གྱིས་རྣམ་འགྲུབ་གནས་འདོད་དང་།།  
འདུས་བྱས་ལམ་འདས་དེ་ཉིད་ཚད་མས་ངེས་འཛིན་པ།།  
གཉེས་ཀ་དངོས་འཛིན་གཏོན་ཆེན་མི་བཟད་ཁར་སོང་ནས།།  
ལྷ་བའི་མཆེ་བ་རྟོན་པོས་དམ་དུ་བརྒྱང་བ་ཡིན།།<sup>12</sup>

འདུ་བྱེད་ཚོགས་འདི་མེད་ཅེས་ཡིད་<sup>(1b1)</sup>ལ་མི་གནས་པར་།།  
སྤང་དོན་ཉིད་དམ་དེ་ལ་མང་དག་འགོག་སྤྱོད་བའི།།  
མི་དེ་གཉིས་ཀྱང་ཚད་མའི་ལམ་ལས་རྣམ་ཉམས་ནས།།  
ལོག་ལྟའི་སྤང་མ་རྒྱ་རྒྱ་རྒྱ་ཐང་དུ་ངེས་པར་ལྷུང་།།༡༩

སྤྱོད་མ་གཉིས་མེད་ཚོས་ཀུན་མི་གནས་དབུ་མ་ཡི།།  
ལུགས་གཉིས་རྣམ་འབྱེད་དེ་ཡང་རྫོངས་པ་མཚར་<sup>(1b2)</sup>བསྐྱེད་ཡིན།།༢༠

དགག་པ་གཙོར་འཛིན་རྗེས་དཔག་གཤེས་ལ་སྤང་བ་ཡི།།  
དངོས་ཚོགས་དེ་དག་སློབ་དམ་བསྐྱབ་དང་དགག་མེད་པར།།  
ཚད་མས་རྣམ་གནས་དོན་གྱི་ཆ་ལ་རྣམ་དཔྱོད་སློབ།།  
དོན་དེ་བཀག་ནས་གཞན་སྤྱོད་མེད་ཅེས་ངེས་པར་བརྩུང་།།༢༡

མི་ལམ་གྲོང་བྱིར་ཞིག་གོ་ཞེས།།  
<sup>(1b3)</sup>འཛིན་པའི་རྣམ་རྟོག་གང་ཡིན་དེས།།  
བརྟགས་དོན་གྲོང་གི་ཞིག་པ་ཉིད།།  
གྲོང་ཉིད་མེད་ན་མེད་པ་ལྟར།།༢༢

ཡང་དག་ཉིད་དུ་དངོས་མེད་ཅེས།།  
འཛིན་པའི་སློབ་ལས་བརྟགས་པའི་དོན།།  
ཡང་དག་བཀག་པ་དེ་ཉིད་ཀྱང་།།  
ཡང་དག་དངོས་པོ་མེད་པར་མིན།།༢༣

འདི་ལྟར་ལུལ་མེད་<sup>(1b4)</sup>པ་ལ་ནི།།  
དགག་པ་འཇུག་པ་སྲིད་མ་ཡིན།།༢༤

དེས་ན་མེད་ཅེས་ངེས་བྱ་བ།།  
དགག་བྱའི་དངོས་པོ་མ་གྲུབ་པ།།  
དེ་ཚོ་དགག་པ་རྟོན་བྲལ་བ།།  
སློབ་མཁུན་དུ་གནས་མི་འགྱུར།།༢༥

དེ་ལྟར་དངོས་པོ་ཡོད་མིན་ལ།།  
 དེ་དགག་པ་ཡང་མ་གྲུབ་ན།།  
 དེ་གཉིས་ལས་<sup>(1b5)</sup> འདས་དོན་འགའ་ཡང་།།  
 འཛིན་པའི་ཡུལ་དུ་འགོ་མི་སྲིད།།<sup>20</sup>

དེས་ན་ཤེས་བྱའི་མཚན་མ་ལས།།  
 ལྷོ་ཡི་གཡོ་བ་རྣམ་བརྗོད་ཏེ།།  
 ལྷོས་ཚོགས་ཉེར་ཞི་བདག་མེད་པའི།།  
 དོན་ལ་ལྷོ་ནི་ལེགས་བཞག་བྱ།།<sup>21</sup>

དེ་ལྟར་སྟོང་ཉིད་གོམས་པ་ལས།།  
 དངོས་འཛིན་རབ་རུ་ཞི་བ་དང་།།  
<sup>(1b6)</sup> བདག་མེད་ཉིད་ཀྱང་འཛིན་མེད་པ།།  
 དེ་ཚེ་ཡང་དག་མཐོང་ཞེས་བྱ།།<sup>22</sup>

གང་ཚོ་ལྟ་བའི་དྲི་མ་ཀུན།།  
 ཡེ་ཤེས་རྒྱ་བོས་རྣམ་སྤངས་པ།།  
 དེ་ཚོ་ཤེས་དང་ཤེས་བྱ་དག།།  
 དམིགས་པ་མེད་པར་རབ་རུ་ཞི།།<sup>23</sup>

དཔེར་ན་རྩལ་རྩལ་བཞག་དང་།།  
 མར་ལ་མར་ནི་རྗེས་ཞུགས་ལྟར།།  
<sup>(1b7)</sup> ཤེས་བྱ་སྣོད་བྲལ་དེ་ཉིད་དང་།།  
 དབྱེར་མེད་ཡེ་ཤེས་རྣམ་འབྲེས་པ།།  
 དེ་ནི་སངས་རྒྱས་ཐམས་ཅད་ཀྱི།།  
 རང་བཞིན་ཚོས་སྤྲོ་ཞེས་བྱར་བརྗོད།།<sup>24</sup>

དེ་རྗེས་ཤེས་བྱའི་རྗེས་འབྲང་ཅན།།  
 བརྗེན་སྤྲང་འཇིག་རྟེན་རི་སྲིད་པ།།  
 རིག་མཛད་མེ་ལོང་ལྟ་བུ་ནི།།  
 ལོངས་སྟོན་རྗོད་པའི་སངས་རྒྱས་སོ།།<sup>25</sup>

སྤུ་མ་ཇི་ལྟ་ཉིད་མ་ཁྱེན་ནི།  
(1b8) འཁྲུལ་མེད་མཉམ་གཞག་སློབ་འཇུག་མེད།  
ཕྱི་མ་ཇི་སྟེད་མ་ཁྱེན་པ་ནི།  
འཁྲུལ་སྤང་རྗེས་ཐོབ་སློབ་འཇུག་ཅན།། 26

སངས་རྒྱལ་སྤུལ་པའི་སྐྱོ་ཚོགས་ནི།  
གཞན་གྱི་རྣམ་རིག་སྤང་བ་སྟེ།  
བརྒྱ་ཕྱིན་གཟུགས་བརྟན་ལ་སྟོགས་དཔེ།  
མདོ་ནས་ཇི་སྐད་གསུང་དེ་བཞིན།། 27

དེ་ལྟར་ཐེག་ཆེན་བཀའ་ཚོགས་འོ་མའི་<sup>(1b9)</sup>མཚོ་བསྐྱབས་ལས།།  
སྐྱེས་པའི་བདུད་ཅི་སྐྱ་མ་རྒྱུད་པ་ལས་རྟེན་འདི།  
གཞན་ཕན་ཉིད་གྱི་ཕྱོགས་སུ་རྒྱལ་པར་བྱ་བའི་ཕྱིར།  
སྤྱིང་ཡིག་ཚུལ་དུ་བགྱིས་ཏེ་བྱེད་ལ་གསོལ་བ་ལགས།།  
དམ་པ་བྱེད་གྱི་ཚོས་སྤྱོད་རབ་རུ་འཕེལ་བའི་རྒྱ།  
སེམས་སྤྱོད་ཚོགས་ཡིད་དམ་སྤྱོད་པ་དང་བཅས་འདི།། 28

ལེགས་<sup>(2a1)</sup>པར་ལྷ།།

དགོ་སློང་སློབ་ལུན་ཤེས་རབ་གྱིས་གྲོ་སྟོན་ཤེས་རབ་གྲགས་ལ་སྟོགས་པ་གཙོང་ཁ་རུ་གསུམ་གྱི་དགོ་འདུན་ལ་སྤྱིང་པའི་  
ཡི་གེ་བདུད་ཅི་ཐེག་ལེ་ཞེས་བྱ་བ་རྗེགས་སྟོ།།

## テキストの異読一覧

以下に示す異読一覧においては、左側に校訂テキストの偈頌番号を提示し、続いてテキストの異読を挙げた。使用した略号は以下のとおり。MS=デブン写本、Ś=シャーキャチョクデン作『甘露の滴註』、*em.*=*emendation* (訂正)、*conj.*=*conjecture* (暫定的な訂正)。異読取捨の論拠については訳註篇にて論じたい。

- 2b: phreng ba *em.*, phreng pa MS.  
 3c: 'gro skye gnas *conj.*, 'gro ba gnas MS.  
 3d: ces *conj.*, cing MS.  
 5a: dpung MS, bdud Ś.  
 5a: skem byed *em.*, skems byed MS.  
 7a: sangs rgyas bstan pa sdug bsngal nad kun zhi byed pa'i MS, sdug  
       bsngal [nad kun zhi byed pa'i sangs rgyas bstan pa] Ś.<sup>(46)</sup>  
 10b: klu sgrub Ś, klu grub MS.  
 10c: dbang phyug MS, mthar thug Ś.  
 10d: rtswa *em.*, rtsa MS.  
 11d: klu sgrub kyis Ś, klu grub gyis MS.  
 12b: tshad mas Ś, tshad ma MS.  
 12c: gdon chen mi bzad *em.*, gdon chen mi zad MS, mi zad gdon chen Ś.  
 12d: bzung ba Ś, zin pa MS.  
 13c: rnam nyams *em.*, rnam nyams MS.  
 13d: mya ngam Ś, mya ngan MS.  
 14a: dbu ma yi MS, dbu ma pa'i Ś.  
 14b: de yang MS, 'di yang Ś.  
 15b: de dag Ś, dge ba'i MS.  
 15c: tshad mas Ś, tshad ma MS.  
 15c: cha la rnam dpyod blos Ś, cha rnam spyod pa'i blos MS.  
 17c: de Ś, med MS.  
 19a: nges Ś, des MS.  
 19c: bral ba Ś, bral na MS.  
 19d: mdun du MS, mdun na Ś.

- 20b: dgag MS, bkag Ś.  
 20d: yul Ś, yu MS.  
 21b: bzlog MS, zlog Ś.  
 22a: las MS, yis Ś.  
 23b: sbyangs pa Ś, sbyangs pas MS.  
 24a: dper na chu MS, Ś, ji ltar chu *Grub mtha' mdzod* (114b4) = *Chos dbyings mdzod* (186a4).  
 24a: bzhag MS Ś *Grub mtha' mdzod*, thim *Chos dbyings mdzod*.  
 24e: de ni MS, de tshe Ś, de nyid *Grub mtha' mdzod* = *Chos dbyings mdzod*.  
 24f: zhes byar MS *Grub mtha' mdzod* = *Chos dbyings mdzod*, zhes su Ś.  
 25b: brdzun MS, rdzun Ś.  
 25d: so MS, yin Ś.  
 26a: ji lta nyid mkhyen MS, ji lta mkhyen nyid Ś.  
 26c: ji snyed MS, ji srid Ś.  
 27b: rig MS, rigs Ś.  
 27b: snang ba Ś, snang pa MS.  
 27c: la swogs dpe' MS, la sogs dpes Ś.

## 内容概観

先に見たように、『書簡・甘露の滴』は、「シェーラプタクをはじめとするツォンカ地方ルスムの僧伽」に宛てた書簡であり、弟子への教誡を目的としたものである。書簡 (spring yig, lekha) は、インド仏教における一つの文学のジャンルである。Dietz はテンギェル所収の12点の書簡を網羅的に分析し、2-5世紀、7-8世紀、10世紀後半-12世紀の3つの時代に分類する。そして Dietz (1984:113) によれば、10-12世紀に最も盛んに書簡が著されたとされる。たとえば、ジターリ、アティシャ、ミトラヨーギンは各々国王宛に<sup>(47)</sup>、ロデンシェーラプの師サツジャナはチベットに滞在する息子マハージャナ宛に書簡を著している<sup>(48)</sup>。またロデンシェーラプの高弟トルンパも、「法主たる師 (ロデンシェーラプ) の優れた教えを滴のかたちで述べた」<sup>(49)</sup>とする『宝鬘五十頌』(*Rin po che'i phreng ba lnga bcu pa*) という書簡を「親友」(yid 'thun pa'i bshes pa) に宛てている。それは、道次第 (lam rim) の核心を五十の偈頌で綴ったものであり、『書簡・甘露の滴』と構成が類似する<sup>(50)</sup>。

『書簡・甘露の滴』は、シャーキャチョクデンによると、1.「教えを示す対象者への吉祥のことば」(1-2偈)、2.「本論」(3-27偈)、3.「結頌」(28偈)<sup>(51)</sup>の三部構成である。1.では書簡を宛てた者たちに悪行を抑止することを勧告し、3.では書簡を差し出した理由を述べる。1.と3.は、Dietzが定義するインドの仏教書簡における形式に準じたものである<sup>(52)</sup>。

2.の「本論」はさらに、2.1「甚深・広大道の確立」(3-20偈)、2.2「道の実践方法」(21-22偈)、2.3「果の体系」(23-27偈)に三分される。

以下に、シャーキャチョクデン自身が示す『甘露の滴註』における科文を提示しよう。各項目の見出しは、本文中に示されるチベット語の見出しを参照して筆者が適宜定めたものである。

| シャーキャチョクデンによる科文                   | 偈番号  |
|-----------------------------------|------|
| 1 序                               |      |
| 1.1 帰敬文                           | 欠    |
| 1.2 教えを示す対象者への吉祥のことば              |      |
| 2 本論                              |      |
| 2.1 甚深・広大道の確定                     |      |
| 2.1.1 広大行へ入る方法                    |      |
| 2.1.1.1 三種人士の道に順次入る方法             |      |
| 2.1.1.1.1 業の因果を思惟して至高の道に入る        | 3    |
| 2.1.1.1.2 輪廻の損失を思惟して煩惱の制圧を実行する方法  | 4    |
| 2.1.1.1.3 三世において菩薩道に入る方法          |      |
| 2.1.1.1.3.1 最勝菩提に発心することの利益        | 5ab  |
| 2.1.1.1.3.2 誓願発起                  | 5bcd |
| 2.1.1.1.3.3 発心                    | 6    |
| 2.1.1.2 道に入り三学処を学ぶ方法              | 7    |
| 2.1.1.3 学んだ後に利他行を実行する必要性          |      |
| 2.1.1.3.1 他者に信心を起こさせる             | 8    |
| 2.1.1.3.2 他者を利する                  | 9    |
| 2.1.2 甚深なる思想へ入る方法                 |      |
| 2.1.2.1 甚深空性の確立を経と理のみに基づいて説く      |      |
| 2.1.2.1.1 中観如理書の論理の優れた解説方法の必要性を説く | 10   |



|   |       |
|---|-------|
| 2.1.2.1.2 それを解説する典拠は龍樹の典籍以外に根拠がない       | 11    |
| 2.1.2.2 他の解説方法は妥当しない                    |       |
| 2.1.2.2.1 「否定」についての略説                   | 12    |
| 2.1.2.2.2 「否定」についての詳説                   |       |
| 2.1.2.2.2.1 詳説                          | 13    |
| 2.1.2.2.2.2 まとめ                         | 14    |
| 2.1.2.3 自派の解説方法を典拠に沿って解説する              |       |
| 2.1.2.3.1 推理が生じる手順                      | 15abc |
| 2.1.2.3.2 論理知によって確定する手順                 |       |
| 2.1.2.3.2.1 主論                          | 15cd  |
| 2.1.2.3.2.2 その体系を教説に結びつける               |       |
| 2.1.2.3.2.2.1 『入菩薩行論』所説の論理による解説         |       |
| 2.1.2.3.2.2.1.1 喩例                      | 16    |
| 2.1.2.3.2.2.1.2 喩例が指示する意味               | 17    |
| 2.1.2.3.2.2.2 龍樹の教説に結びつける               | 18    |
| 2.1.2.3.2.2.3 まとめ                       | 19-20 |
| 2.2 甚深の思想を道において実践する方法                   | 21-22 |
| 2.3 果としての仏地の体系                          |       |
| 2.3.1 主論                                |       |
| 2.3.1.1 等至における法身の確認                     | 23-24 |
| 2.3.1.2 後得における色身の体系(報身)                 | 25    |
| 2.3.1.3 法身と色身を分けてから仏業のはたらきを説く(変化身)      | 26-27 |
| 2.3.2 附論                                |       |
| 2.3.2.1 ロデンシェーラプの思想を自派(サキャ派)の立場によって立証する |       |
| 2.3.2.2 他派に構想された極端論を排斥する必要性の説示          |       |
| 3 結論                                    | 28    |

なお本作品の偈頌には、11音節のもの(1-15、28偈)と7音節のもの(16-27偈)がある。第15偈から第16偈にかけて音節数は変化するが一連する内容である。一方で第27偈と第28偈の間には、音節数の変化に伴って内容的な断絶がある。

さて『書簡・甘露の滴』の所説内容を要約すると次のとおりである。先ず冒頭において書簡を宛てた者たち(奥書によるとシェーラプタクなど)の徳性を樹に喩え、

その樹が悪行という雷に打たれることのないよう注意を喚起する(1-2偈)。続いて人々を悪趣に導く死を羅刹に喩えて、輪廻を厭離して悟りへ発心するよう促す(3-4偈)。その一方で、輪廻を完全に捨て去ってしまう声聞を批判し(5偈)、解脱を天宮に喩えて、自らそこに登り他者をもそこに導くように勧め(6偈)、学処への専念と師への奉持を促す(7-8偈)。そして、雨を多聞に、種を如来蔵に、収穫される作物を仏の徳性に喩え<sup>(53)</sup>、仏道へ入る順序を教示する(9偈)。

続いて空性説を教示する。『プラマーナヴァールティカ』に基づき龍樹の思想体系を理解する本性空のありかたを説き(10偈)、過剰肯定と過剰否定の両極端に走る者たちを批判し(11偈)、中観を如幻派と無住派に二分する方法を批判し(12<sup>(54)</sup>-14偈)<sup>(55)</sup>、そして正しい空性説について「否定」のありかたを通じて説く(15-21偈)<sup>(56)</sup>。

次に行について説く。すなわち空性の修習によって実体的把握を制御し、無我への固執を捨てれば真実を体験することができ、誤った見解を浄化したならば知と所知は所縁なきものとなるという(22-23偈)。

そして、行の果として得られる仏の三身について、法身とは所知と智慧の合一したものであり(24偈)、報身とは虚偽の顕現を鏡のように映し出すものだと解説する(25偈)。また前者は等至と関連し知の活動が無く、後者は後得と関連し知の活動を伴う(26偈)と述べる。さらに変化身は人々の識に顕現するものであることを説いて本論が終わる(27偈)。

最後に、師より相承された教えを広めるために、利他を目的としてこの書簡を差し出した旨を述べて結びの言葉としている(28偈)。なお28偈末尾でロデンシェーラプは同書を「発心儀軌」(sems skyed kyi cho ga)と呼んでいる<sup>(57)</sup>。

本作品の前半(1-9偈)は多様でしかも巧みな比喩を織り交ぜた教誡よりなり、中盤(10-21偈)は空性の体系を論理的に分析し、後半(22-27偈)では再び比喩を用いながら修習と仏身の体系を解説している。特に中盤の部分はロデンシェーラプの中観哲学の思想立場を知る上で貴重である。

## おわりに

『カダム全集』の出版によって、チベット仏教後伝期の最初期に著された作品の数々が公開され、サンブ寺教学の原典研究が可能となった。その中にはサンブ教学の研究にとって核となる、ロデンシェーラプに帰せられる9点の著作が含まれており、とりわけその全文の解明が切望されてきた『書簡・甘露の滴』が完全な形で公

開されたことは特筆に値する。本稿ではその校訂テキストを提示することによってその全体像を明らかにすることができた。写本は読解に困難を伴う箇所を含むが、それらはシャーキャチュクデン著『甘露の滴註』によってほぼ解決しうる。その内容の詳細な分析は別稿（訳註篇）に譲りたい。

### [資料] 『カダム全集』収録作品リスト

以下に提示するリストは『カダム全集目録』（13-30頁）に基づいて作成し、若干の訂正を施した。特に作品名については個々の写本の奥書に基づいて、同目録所掲の略称を正式なタイトルに改めた。また、目録には4点の作品が見落とされているため、以下のリストにそれらを追加し、「目録未記載」と注記した。作品名に続いては写本の総葉数、全集編者に付された頁番号、写本所蔵場所を各々示した。必要に応じて、総葉数を表記した直後に鉤括弧を付し、首尾各葉の葉番号、脱落している葉番号、重複している葉番号、1枚に2つの葉番号が付されるものについて注記した。葉番号が脱落している場合は、当該葉番号を有する葉が失われた可能性と、単に番号だけが飛んでいる可能性との二通りが考えられるが、その吟味は今後の課題としたい。所蔵場所については『カダム全集目録』の解説箇所（31-107頁）に記される情報に基づいて補い、以下の記号を使用した。B (= 'Bras dpungs gNas bcu lha khang デブン寺十六羅漢堂)、L (= Lhasa Bod ljongs dpe mdzod khang ラサ・チベット図書館)、S (= Se ra セラ寺)、G (= rGyal rtse dPal 'khor chos sde ギャンツェ・ペンコルチューデ)。さらに整理番号が確認できるものに関してはそれを鉤括弧内に追記した<sup>(58)</sup>。また写本が私蔵の場合は所蔵者の名を提示した。なお、『カダム全集目録』の作品一覧（13-30頁）と解説箇所（31-107頁）の記述の間に多少の齟齬がみられるため、必要に応じて註記を施した。同リストにおいて著者不明とした箇所については、将来個々の作品の読解を通じて解明されることを期す。

Vol. 1

**Lo chen Rin chen bzang po** (d. 1055)<sup>(59)</sup>

*dPal 'khor lo bde mchog lū i pa'i bstod pa yid bzhin nor bu.* 2 fols. (p. 33-35) ;

B.

*Rab tu gnas par byed pa don gsal.* 2 fols. (p. 37-40) ; B [Phyi Ma, 721].

*mNgon par rtogs pa'i dka' ba'i gnad bshad pa.* 13 fols. (p. 45-70) ; B [Phyi

Kha, 77].

*Rab tu gnas par byed pa don gsal*. 1 fol. (p. 71-72) ; B [Phyi Ma, 927].<sup>(60)</sup>

*bDe ba chen gyi smon lam*. 3 fols. (p. 73-77) ; B [Phyi La, 345].

**rNgog Lo tsā ba Blo ldan shes rab** (1059-1109)

*Dag yig nyer mkho bsdus pa*. 9 fols. (p. 93-109) ; L.

*Shes rab snying po'i rgya cher bshad pa*. 4 fols. (p. 111-118) ; Tshul khriims  
rgyal mtshan 氏所蔵.<sup>(61)</sup>

*mNgon par rtogs pa'i rgyan 'grel rin po ché'i sgron me*. 39 fols. (p. 125-201) ; B  
[Phyi Tsha, 41].

*mDo sde rgyan gyi don bsdus*. 23 fols. [最終葉の葉番号は24。葉番号22は脱落。]  
(p. 203-252) ; B [Phyi Tsha, 60].

*dBus dang mtha' rnam par 'byed pa'i don bsdus pa*. 13 fols. (p. 258-281) ; B  
[Phyi Tsha, 116].

*Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos kyi don bsdus pa*. 40 fols. (p. 290-  
367) ; bKra shis dbang rgyal 氏所蔵.<sup>(62)</sup>

*Rigs thigs 'grel pa dang bcas pa'i bsdus don*. 21 fols. (p. 369-409) ; G [Phyi  
Zha, 21].<sup>(63)</sup>

*Tshad ma rnam par nges pa'i dka' ba'i gnas rnam par bshad pa*. 144 fols. [85  
葉目の1枚には85/86の2つの葉番号が付される。] (p. 420-705) ; S  
[Phyi Zha, 83] (末尾部分活字).<sup>(64)</sup>

*sPrings yig bdud rts'i'i thig le*. 2 fols. (p. 707-710) ; B [Phyi La, 281].

Vol. 2

**'Bre Shes rab 'bar** (11世紀)

*bCom ldan 'das yum brgyad stong pa'i don bsdus pa*. 22 fols. [葉番号1は脱落。  
葉番号6が付された葉は2枚あり。] (p. 13-55) ; B [Phyi La, 593].

**Ar Byang chub ye shes** (11世紀)

*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i mdo' rgya cher 'grel*. 6 fols. (p. 65-76) ; B  
[Phyi La, 558].

*mNgon rtogs rgyan gyi 'grel pa rnam par 'byed pa*. 176 fols. [葉番号は33から始

まり209で終わる。] (p. 91-447) ; B [Phyi Tsha, 61].

Vol. 3

**Ar Byang chub ye shes**

*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i sdud pa tshigs su bcad pa'i rnam par bshad*  
*pa.* 63 fols. [葉番号4は脱落。] (p. 11-136) ; B [Phyi Tsha, 93].

*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i sdud pa tshigs su bcad pa'i rnam par bshad*  
*pa.* 70 fols. [最終葉の葉番号は71。葉番号3または4は脱落。] (p. 137-  
276) ; B [Phyi La, 209].

**Gro lung pa Blo gros 'byung gnas (11世紀)<sup>(65)</sup>**

*Bla ma rje btsun dam pa gsang phu pa lo tsa ba chen po la bstod pa'i tshig*  
*le'ur byas pa rnam par bshad pa (= Blo ldan shes rab kyi rnam thar).*  
25 fols. (p. 285-333) ; B [Phyi La, 185].

*'Phags pa yon tan rin po che sdud pa thigs su bcad pa rnam par bshad pa.* 118  
fols. (p. 339-574) ; B [Phyi Tsha, 41] (活字).<sup>(66)</sup>

*'Grel chen gyi rnam par bshad pa (= brGyad stong 'grel chen gyi bshad pa).*  
84 fols. (p. 579-746) ; 'Bras spungs sGo mang grwa tshang gi dpe  
mdzod khang 所蔵 (木版印刷本).

Vol. 4

**Gro lung pa Blo gros 'byung gnas**

*Rin po che'i phreng ba lnga bcu pa.* 2 fols. (p. 3-6) ; B [Phyi La, 360].<sup>(67)</sup>

*bDe bar gshegs pa'i bstan pa rin po che la 'jug pa'i rin chen phreng ba (=bsTan*  
*rim chen mo'i stod cha).* 351 fols. (p. 35-735) ; S [Ka, 6].

Vol. 5

**Gro lung pa Blo gros 'byung gnas**

*bDe bar gshegs pa'i bstan pa rin po che la 'jug pa'i rin chen phreng ba (=bsTan*  
*rim chen mo'i smad cha).* 120 fols. (p. 3-242) ; S [Ka, 6].

*Sangs rgyas kyi bstan pa la rim gyis 'jug pa'i tshul (= bsTan rim chen mo'i*  
*don bsdu).* 40 fols. (p. 243-321) ; S [Ka, 6].

*rGyal ba'i yum bar ma le'u brgyad pa nyi khri lnga stong pa mdo' 'grel rnam par bshad pa.* 135 fols. [最終葉の葉番号は134。葉番号82が付された葉は2枚あり。491-492頁と495-496頁は全同であり、影印が重複している。] (p. 331-602) ; B [Phyi La, 142].

Vol. 6

**rGya dmar ba Byang chub grags** (11-12世紀)

*Byang chub sems dpā'i spyod pa la 'jug pa'i tshig don gsal bar bshad pa.* 82 fols. [最終葉の葉番号は83。葉番号4は脱落。] (p. 11-174) ; B [Phyi Tsa, 65].

**Phywa pa Chos kyi seng ge** (1109-1169)<sup>(68)</sup>

*dBu ma bden pa gnyis rnam par bshad pa.* 33 fols. (p. 185-250) ; B [Phyi Tsa, 120].<sup>(69)</sup>

*dBu ma bden pa gnyis kyi don bsdus pa.* 4 fols. (p. 251-257) ; B [Phyi Tsa, 122].<sup>(70)</sup>

*dBu ma snang ba'i 'grel pa rgya cher bshad pa.* 82 fols. (p. 266-428) ; B [Phyi Tsa, 107].<sup>(71)</sup>

*dBu ma brgyan gyi 'grel pa rgya cher bshad pa.* 43 fols. (p. 433-518) ; B [Phyi Tsa, 120].

Vol. 7

**Phywa pa Chos kyi seng ge**

*dBu ma shar gsum gyi stong thun* (= *dBu ma de kho na nyid kyi snying po*). 58 fols. (p. 15-129) ; B (冒頭部および73頁と83頁は活字).<sup>(72)</sup>

*Byang chub sems dpā'i spyod pa la 'jug pa'i don bsdus pa.* 7 fols. (p. 131-143) ; B [Phyi Tsa, 65].<sup>(73)</sup>

*bSlab pa kun las btus pa'i don bsdus pa.* 1 fol. (p. 143-144) ; B [Phyi Tsa, 65] (未完、目録未記載).<sup>(74)</sup>

*Theg pa chen po rgyud bla ma'i bsdus pa'i don.* 6 fols. (p. 145-156) ; B [Phyi Tsha, 40].

*Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos rgya cher bsnyad pa phra ba'i don gsal ba.* 92 fols. [最終葉の葉番号は93。92葉目は散逸か。] (p. 163-345) ;

B [Phyi Tsa, 60].<sup>(75)</sup>

*Theg chen mdo sde rgyan gyi legs bshad yang rgyan nyi 'od gsal ba.* 94 fols.

[葉番号は25から始まり121で終わる。葉番号98および109-112は脱落。葉番号66と67の間に2葉あり。] (p. 351-537) ; B [Phyi Tsha, 89].<sup>(76)</sup>

*Theg pa chen po mdo sde rgyan gyi lus rnam bzhag.* 16 fols. [549-550頁と551-

552頁は全同であり、影印が重複している。] (p. 539-572) ; B [Phyi Tsha, 60].

Vol. 8

**Phywa pa Chos kyī seng ge**

*Tshad ma rnam par nges pa'i bsdus don.* 13 fols. (p. 3-28) ; G.

*Tshad ma rnam par nges pa'i 'grel bshad yi ge dang rigs pa'i gnad la 'jug pa'i*

*shes rab kyī 'od zer.* 197 fols. (p. 35-427) ; B [Phyi Zha, 11].

*Tshad ma yid kyī mun pa sel ba.* 97 fols. [最終葉の葉番号は96。葉番号28が付さ

れた葉は2枚ある。] (p. 434-626) ; B [Phyi Zha, 11].

Vol. 9

**Phywa pa Chos kyī seng ge**

*bDe bar gshegs pa dang phyi rol pa'i gzhung rnam par 'byed pa.* 33 fols. (p. 7-

72) ; bKra shis dbang rgyal 氏所蔵。<sup>(77)</sup>

*So thar mdo'i 'grel.* 79 fols. (p. 87-243) ; B [Phyi Wa, 10].<sup>(78)</sup>

*'Grel pa 'od ldan zhes bya ba'i ti ka tshig don rab tu gsal ba.* 138 fols. [最終葉

の葉番号は140。葉番号1および113は脱落。] (p. 251-526) ; B [Phyi Wa, 13].<sup>(79)</sup>

*Thams cad yod par smra ba'i dge tshul rnams kyī bslab pa rim pa ston pa'i*

*rnam par bshad pa.* 33 fols. (p. 533-598) ; B [Phyi Wa, 30].

Vol. 10

**Khu Shes rab brtson 'grus (1075-1143)**

*Shes rab kyī pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan chos mngon par rtogs*

*pa'i rgyan ces bya ba'i 'grel pa'i tshig dang don gsal bar bshad pa.*

161 fols. [葉番号1は脱落。143葉目の1枚には143/144の2つの葉番号が

付される。] (p. 15-331) ; B [Phyi Tsha, 10].

'Jad pa gZhon nu byang chub (11世紀)

*Sher phyin rgyas 'bring bsduḡ gsum gyi bshad pa.* 158 fols. [葉番号 1 は脱落。  
143葉目の 1 枚には143/144の 2 つの葉番号が付される。] (p. 341-657) ; B  
[Phyi La, 426].<sup>(80)</sup>

Vol. 11

*Pa tshab Lo tsā ba Nyi ma grags* (b. 1055)<sup>(81)</sup>

*Tshig gsal ba'i dka' ba bshad pa.* 88 fols. (p. 29-203) ; B [Phyi Tsa, 24].<sup>(82)</sup>

*bZhi brgya pa'i rgya cher bshad pa'i bsduḡ pa'i don.* 5 fols. (p. 205-214) ; B  
[Phyi Tsa, 7].<sup>(83)</sup>

*Bya 'Chad kha ba Ye shes rdo rje* (b. 1101)

*Grub mtha' chen mo.* 14 fols. (p. 225-252) ; G.<sup>(84)</sup>

*gSung sgros thor bu.* 9 fols. (p. 253-269) ; S.

*Blo sbyong don bdun ma'i rtsa ba.* 1 fol. (p. 271-272) ; B [Phyi La, 34] (木版印  
刷本).<sup>(85)</sup>

*Blo sbyong glang thang pa'i tshig rkang brgyad ma'i 'grel pa.* 13 fols. (p. 273-  
297) ; Tshul khrim rgyal mtshan 氏所蔵.

*Rom po'i bshad pa'i gdams ngag.* 3 fols. (p. 299-303) ; B [Phyi La, 209].

sPar phu ba Blo gros seng ge (12世紀)<sup>(86)</sup>

*Blo gros dri ma med pa'i snang ba.* 39 fols. [葉番号 5 が付された葉は 2 枚ある。  
36葉目の 1 枚には36/37の 2 つの葉番号が付される。] (p. 311-387) ; B [P  
hyi La, 378].

*Dho ha mdzod kyi sgo dbye ba'i sgron ma lhan cig skyes pa'i snang ba.* 22 fols.  
(p. 397-440) ; [Phyi Dza, 8] (目録未記載).<sup>(87)</sup>

*Dho ha man ngag gi gter mdzod kyi bshad pa snying po rnam par nges pa.* 10  
fols. (p. 441-459) ; [Phyi Dza, 8] (目録未記載).<sup>(88)</sup>

*mDzod kyi gnas gsal bar byed pa zla ba'i 'od zer.* 7 fols. (p. 459-471) ; B [Phyi  
Dza, 8].<sup>(89)</sup>



*mDzod kyi gnas gsal bar byed pa zla ba'i 'od zer.* 17 fols. (p. 475-508) ; B [Phyi Ma, 117].<sup>(90)</sup>

*mDo ha brgya cu pa'i bsdu don.* 3 fols. (p. 509-513) ; B [Phyi Ma, 114].<sup>(91)</sup>

*mDo ha man ngag gi gter mdzod kyi bshad pa snying po rnam par nges pa.* 25 fols. (p. 519-568) ; B [Phyi Ma, 114].

*rTen cing 'brel bar 'byung ba'i rab tu byed pa 'khor 'das kyi chos thams cad blta ba'i me long.* 24 fols. [最終葉の葉番号は26。葉番号3-6は脱落。] (p. 573-618) ; B [Phyi La, 345].

*Bla ma mnyes par byed pa'i bsgrub pa.* 4 fols. (p. 619-626) ; B [Phyi Ma, 114].<sup>(92)</sup>

## Vol. 12

**gNyal zhig 'Jam dpal rdo rje** (12世紀)

*mNgon rtogs rgyan gyi 'grel bshad theg pa chen po la 'jug pa.* 244 fols. (p. 21-507) ; B [Phyi Tsha, 41].<sup>(93)</sup>

## Vol. 13

**gTsang nag pa brTson 'grus seng ge** (12世紀)<sup>(94)</sup>

*Tshad ma rnam nges kyi 'grel pa.* 210 fols. (p. 13-434) ; 大谷大学所蔵.<sup>(95)</sup>

*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa mdo rkyang du bshad pa'i don yang dag par bsdu pa.* 8 fols. (p. 435-449) ; Tshul khirms rgyal mtshan 氏所蔵.<sup>(96)</sup>

*sTon pa'i bstan pa la byi dor bya ba'i tshigs su bcad pa lnga bcu pa.* 5 fols. (p. 450-459) ; Tshul khirms rgyal mtshan 氏所蔵.

*Byang chub sems dpa'i rnal 'byor spyod pa bzhi' brgya pa'i dka' gnad bshad pa.* 6 fols. (p. 461-472) ; B.

*Byang chub sems pa'i spyod pa la 'jug pa'i 'grel pa legs par bshad pa bsdu pa.* 47 fols. (p. 487-579) ; G.

*Byang chub sems pa'i sdom pa nyi shu pa'i bshad pa tshig don gsal ba.* 7 fols. (p. 581-593) ; B [Phyi La, 510].

*Byang chub tu sems bskyed pa'i spyi don.* 13 fols. (p. 595-619) ; B [Phyi Ma, 1025].

*sKyabs su 'gro ba'i spyi don.* 11 fols. (p. 620-641) ; B [Phyi Ma, 1025].

*Byang chub sems dpā'i sa'i dka' 'grel*. 48 fols. (p. 647-742) ; B [Phyi La, 423].

**rMa bya Byang chub brtson 'grus** (12世紀)

*dBu ma rigs pa'i tshogs kyi rgyan de kho na nyid snang ba'i rtsa ba*. 2 fols. (p. 745-748) ; B [Phyi Tsha, 24].

*dBu ma rig pa'i tshogs kyi rgyan de nyid snang ba*. 34 fols. (p. 753-820) ; B [Phyi Tsa, 84].

Vol. 14

**'Jam gsar ba Shes rab 'od zer** (12世紀)

*sPring yig baidūryā'i phreng ba*. 4 fols. (p. 7-14) ; Tshul khrims rgyal mtshan 氏所蔵 (活字).

*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos mngon par rtogs pa'i rgyan ces bya ba'i 'grel bshad 'thad pa'i 'od 'bar*. 185 fols. (p. 25-393) ; B [Phyi Tsha, 103].

**bSod nams seng ge** (12/13世紀)

*dBu ma rtsa ba'i rnam par bshad pa srog gi 'khor lo*. 100 fols. [最終葉の葉番号は99。葉番号56が付された葉が2枚ある。] (p. 403-601) ; B [Phyi Tsa, 35].

Vol. 15

**sGros rnying pa 'Od zer mgon po** (13世紀)

*Blo gros kyi mun pa sel bar byed pa chos kyi sgron ma (= mNgon rtogs rgyan gyi 'grel pa)*. 148 fols. [葉番号119が付された葉が2枚ある。108葉目の1枚には108/109の2つの葉番号が付される。] (p. 27-322) ; B [Phyi Tsa, 44].

**gSang phu Blo gros mtshungs med** (14世紀)

*Byang chub sems dpā'i spyod pa la 'jug pa'i de kho na nyid gsal bar byed pa rin po chē'i snang ba*. 156 fols. [葉番号80-81および90を付す、都合3枚は欠損しており、対応する頁には白紙が挿入されている。] (p. 339-649) ;

B [Phyi Tsa, 73].

*bsNgo ba yon bshad kyi stong thun.* 2 fols. (p. 651-654) ; B [Phyi La, 351].

Vol. 16

**gSang phu Blo gros mtshungs med**

*Theg pa rin po che gsal byed rin po che'i rgyan snang.* 303 fols. [葉番号206が付された葉は2枚ある。273葉目の1枚には273/274の2つの葉番号が付される。] (p. 14-618) ; B [Phyi La, 29].

Vol. 17

**gSang phu Blo gros mtshungs med**

*rGyud bla ma'i bstan bcos kyi nges don gsal bar byed pa rin po che'i sgron me.* 341 fols. (p. 10-690) ; TBRC.<sup>(97)</sup>

Vol. 18

**'Jam dbyangs rin chen grags pa (14世紀)**

*Theg pa chen po mdo sde rgyan gyi legs bshad bstan pa'i nyi ma.* 159 fols. [最終葉の葉番号は160。葉番号43は脱落。] (p. 19-335) ; B [Phyi Tsha, 59].

著者不明

*Theg pa chen po bsdus pa'i rnam par bshad pa de kho na nyid gsal ba.* 80 fols. [最終葉の葉番号は82。葉番号48は脱落。76葉目の1枚には76/77の2つの葉番号が付される。] (p. 341-500) ; B [Phyi Tsha, 113].

Vol. 19

**'Chus Dar ma brtson 'grus (1117-1192)**

*mNgon rtogs rgyan gyi tri k*■. 110 fols. [最終葉の葉番号は108。葉番号12および23が付された葉は各々2枚ずつある。] (p. 13-232) ; S.

著者不明

*dBu ma la 'jug pa'i bsdus don.* 6 fols. (p. 235-245) ; B [Phyi Tsa, 114].

*bDen gnyis rnam bshad ti ka.* 35 fols. [最終葉の葉番号は45。葉番号3-16および

26-28は脱落。] (p. 247-316) ; B [Phyi Tsa, 74].<sup>(98)</sup>

*dBu ma'i man ngag gi bshad pa*. 9 fols. (p. 317-334) ; B [Phyi Tsa, 74].<sup>(99)</sup>

*bDen gnyis kyi 'bum*. 18 fols. (p. 335-369) ; B [Phyi Tsa, 82].<sup>(100)</sup>

*bDen chung gi 'bum* (= *dBu ma'i man ngag gi 'bum*). 16 fols. (p. 370-401) ; B  
[Phyi Tsa, 82].<sup>(101)</sup>

### Brag ram pa Shes rab 'bum (13世紀)

*dBu ma rtsa ba'i bshad pa 'thad pa rnam par nges pa*. 59 fols. [葉番号34が付  
された葉が2枚ある。] (p. 411-527) ; B [Phyi Tsa, 88].<sup>(102)</sup>

*dBu ma rtsa ba'i 'grel pa tshig gsal gyi bshad pa nges don rnam par gzigs pa*.  
30 fols. [最終葉の葉番号は32。葉番号1は脱落。16葉目の1枚には16/17  
の2つの葉番号が付される。] (p. 535-594) ; B [Phyi Tsa, 65].

*'Dul ba'i sdom tshig bsdu don gsal byed me long*. 8 fols. (p. 595-609) ; B [Phy  
i Wa, 4].<sup>(103)</sup>

*gNas lugs ngo sprod kyi gdams pa*. 22 fols. (p. 611-654) ; B [Phyi Ka, 46].

*dPal dus kyi 'khor lo'i sgrub thabs rnam 'byor bcu gnyis pa*. 16 fols. (p. 655-  
685) ; B [Phyi Ka, 6].

### Vol. 20

#### Rin chen ye shes

*rGyud bla ma'i 'grel pa mdo dang sbyar ba nges pa'i don gyi snang ba*. 212  
fols. (p. 23-445) ; B [Phyi Tsha, 125].

#### dGe 'dun 'od zer

*Theg pa chen po rgyud bla ma'i rnam bshad don dam rnam nges bsdu pa'i  
snying po'i snying po*. 57 fols. (p. 455-568) ; B [Phyi Tsha, 122].

### Vol. 21

#### gZhon nu rin chen (13世紀)

*mNgon par rtogs pa'i rgyan gyi 'grel pa bcud kyi thig le*. 139 fols. [最終葉の葉  
番号は149。葉番号13および22-24が付された葉は脱落。] (p. 15-303) ; B  
[Phyi Tsha, 116].

*Byang chub sems dpā'i bslab pa kun las btus pa'i ti ka mdo sde nyi ma'i snying*  
po. 91 fols. (p. 329-509) ; B [Phyi Tsa, 54].<sup>(104)</sup>

**rNal 'byor pa Shes rab rdo rje** (11世紀)

*bDen gnyis kyi rnam par bshad pa.* 54 fols. [最終葉の葉番号は55。葉番号8は脱落。]  
(p. 519-625) ; B [Phyi Tsa, 73].<sup>(105)</sup>

Vol. 22

**Shwara ratna** (dBang phyug rin chen, 13世紀)

*dBu ma chen po'i man ngag.* 12 fols. (p. 5-28) ; B [Phyi Tsa, 73].<sup>(106)</sup>

著者不明

*'Od zer snying po.* 5 fols. (p. 29-38) ; B [Phyi Tsa, 73].<sup>(107)</sup>

**Ye shes rgyal mtshan**

*sDud pa tshigs su bcad pa'i bshad sbyar.* 40 fols. (p. 43-122) ; B [Phyi Tsha,  
40].

**bSod nams rgyal mtshan**

*Theg pa chen po mdo sde rgyan gyi dka' ba'i gnas bshad pa.* 97 fols. (p. 129-  
321) ; B [Phyi Tsha, 89].<sup>(108)</sup>

**Chos grags**

*rGyal ba'i yum bsdus pa brgyad stong pa'i rnam par bshad pa.* 102 fols. (p.  
329-531) ; B [Phyi La, 426].

Vol. 23

著者不明

*sKabs brgyad pa'i 'grel pa'i rnam par bshad pa.* 186 fols. [最終葉の葉番号は188。  
葉番号167および171は脱落。]  
(p. 17-388) ; B [Phyi Tsha, 44].<sup>(109)</sup>

*rGyal ba'i yum sdud pa'i don gsal ba'i ti ka.* 29 fols. (p. 389-444) ; B [Phyi La,  
253] (目録未記載).

*rGyal ba'i yum yon tan rin po che sdud pa'i bsdus don.* 5 fols. (p. 445-455) ; B  
[Phyi La, 253].

**Zhang 'Bal Tshad ma pa** (11/12世紀)<sup>(110)</sup>

*Sher phyin mngon rtogs rgyan gyi 'grel pa'i brjed byang zhal rgyun gyi gdams  
pa.* 71 fols. (p. 461-602) ; B [Phyi La, 415].

Vol. 24

著者不明

*Dri ma med pa'i 'od ces bya ba bden gnyis kyi rnam bshad rgyas pa.* 259 fols.  
[最終葉の葉番号は267。葉番号17-24および255は脱落。葉番号221が付さ  
れた葉は2枚ある。] (p. 9-525) ; B [Phyi La, 546].<sup>(111)</sup>

Vol. 25

**Byang chub skyabs**

*Byang chub sems dpā'i bslabs pa kun las btus pa'i don bsdus pa.* 21 fols. (p. 9-  
50) ; B [Phyi Dza, 18].

*Byang chub sems dpā'i bslabs pa kun las btus pa'i 'grel bshad.* 196 fols. [最終  
葉の葉番号は202。葉番号90、102、128、153、170、180、187、190は脱落。葉  
番号117および125が付された葉は各々2枚ずつあり。445-453頁には2種  
の異なる葉番号が付されている。] (p. 63-453) ; B [Phyi Dza, 18].

著者不明<sup>(112)</sup>

*mDo sde rgyan rtsa ba'i le'u nyi shu rtsa gcig pa le phran brgyad cu gya  
brgyad rnam par bshad pa.* 97 fols. (p. 461-653) ; B [Phyi Tsha, 102].

Vol. 26

**Shes rab grags**

*Shes rab kyī pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos mngon par rtogs  
pa'i rgyan gyi 'grel bshad 'thad ldan gsal byed rin po chēi snang ba.*  
197 fols. [最終葉の葉番号は198。118葉目の1枚には118/119の2つの葉  
番号が付される。] (p. 11-401) ; B [Phyi Tsha, 44].<sup>(113)</sup>

## 著者不明

*Yon tan rin po che sdud pa tshigs su bcad pa'i don rnam par 'byed pa.* 50 fols.  
(p. 409-508) ; B [Phyi Tsha, 93].

*Shes rab pha rol tu phyin pa'i gsal byed.* 14 fols. (p. 509-537) ; B [Phyi Tsha,  
93].

## Vol. 27

IDum bu ba bSod nams dpal<sup>(114)</sup>

*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa mngon par rtogs pa'i rgyan 'grel pa bcas pa'i  
rnam bshad lam gyi rim pa snang ba.* 89 fols. [最終葉の葉番号は90。  
49葉目の1枚には49/50の2つの葉番号が付される。] (p. 19-195) ; B  
[Phyi Tsha, 40].

**Sa bzang Ma ti pañ chen Blo gros rgyal mtshan** (1294-1376) [全集では著者未  
比定].<sup>(115)</sup>

*Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos kyi rnam bshad nges don rab gsal  
snang ba.* 207 fols. [最終葉の葉番号は217。葉番号137-146は脱落。未完。]  
(p. 211-624) ; B [Phyi Tsha, 100].

## Vol. 28

著者不明 (12/13世紀)<sup>(116)</sup>

*mNgon par rtogs pa'i rgyan gyi rnam bshad legs par bshad pa rin po che'i  
snang ba.* 199 fols. [未完。] (p. 23-422) ; B [Phyi Tsha, 70].

Yon tan dbang phyug<sup>(117)</sup>

*Byang chub sems dpai spyod pa la 'jug pa'i sgrung 'grel las 'bras gsal ba'i me  
long.* 39 fols. (p. 427-503) ; B [Phyi Tsa, 79].<sup>(118)</sup>

## Shag Rings ston pa

*dBu ma rtsa ba'i tikka rnam dpyad snying po.* 57 fols. (p. 523-636) ; B [Phyi  
Tsa, 7].

Vol. 29

**Se sPyil bu ba Chos kyi rgyal mtshan (1121-1189)**

*Theg chen mdo sd'e'i rgyan gyi don mdor bsdus nas bkrol ba.* 61 fols. (p. 13-133)  
; B [Phyi Tsha, 89].

**bTsun pa dBu ma pa**

*Theg pa chen po dbu ma'i nyams su blang pa bsgom pa'i rim pa.* 20 fols. (p. 141-179) ; B [Phyi La, 550].<sup>(119)</sup>

**Ratna kirti**

*mTha' bral dbu ma'i rnam gzhag gsal byed sgron me.* 23 fols. [最終葉の葉番号は22。葉番号17と18の間に1葉あり。] (p. 187-232) ; B [Phyi Tsa, 34].

**bSod snyom pa Rin chen rgyal mtshan**

*bsTan bcos mngon par rtogs pa'i rgyan gyi lus mdzes par byed pa'i rgyan legs par bshad pa rin po che'i tshoms bsgrigs pa.* 48 fols. [全葉に異なる2種の葉番号が付される。] (p. 237-332) ; B [Phyi Tsha, 139].<sup>(120)</sup>

**Zhang 'Bal Tshad ma pa (11/12世紀) [全集では著者未比定]<sup>(121)</sup>**

*Shes rab pha rol tu phyin pa'i 'grel pa'i brjed byang bla ma'i zhal rgyun gyi gdams pa.* 78 fols. [最終葉の葉番号は79。葉番号76は脱落。] (p. 337-492)  
; B [Phyi Tsha, 117].

**gSang mda' ba Chos kyi rgyal mtshan dpal bzang po**

*Phyag rgya chen po la 'khrul ba sel ba'i bstan bcos dgongs don gsal ba.* 7 fols.  
(p. 493-506) ; B [Phyi Ma, 98].

Vol. 30

**Bya 'Dul 'dzin brTson 'grus 'bar (1100-1174)**

*'Dul tik 'thad ldan.* 184 fols. [最終葉の葉番号は185。143葉目の1枚には143/144の2つの葉番号が付される。] (p. 19-385) ; B [Phyi Wa, 4].

*'Dul tik 'thad ldan.* 44 fols. (p. 387-473) ; bKra shis dbang rgyal 氏所蔵。(前半



部欠損)<sup>(122)</sup>

## 参考文献

## チベット語資料

## 『一切宗義』

Thu'u bkwan Blo bzang chos kyi nyi ma. *Grub mtha' thams cad kyi khungs dang 'dod tshul ston pa legs bshad shel gyi me long*. Collected Works. New Delhi, 1969. Vol. 2, 5-519.

## 『カダム全集』(第一輯)

*bKa' gdams gsung 'bum 'phyogs sgrig thengs dang po*. Ed. dPal brtsegs bod yig dpe rnying zhib 'jug khang. 30 Vols. Si khron mi rigs dpe skrun khang, 2006.

## 『カダム全集目録』(第一輯)

*bKa' gdams gsung 'bum 'phyogs sgrig thengs dang po'i dkar chag*. Ed. dPal brtsegs bod yig dpe rnying zhib 'jug khang. Si khron mi rigs dpe skrun khang, 2006.

## 『カダム明灯史』

Las chen Kun dga' rgyal mtshan. *bKa' gdams chos 'byung gsal ba'i sgron me*. Lhasa: Bod ljongs mi dmangs dpe skrun khang, 2003.

## 『書簡・甘露の滴』

rNgog Blo ldan shes rab. *sPring yig bdud rts'i'i thig le*. 『カダム全集』 Vol. 1, 707-710.

## 『甘露の滴註』

gSer mdog paṇ chen Shākya mchog ldan. *sPring yig bdud rts'i'i thigs pa'i rgya cher bshad pa dpag bsam yongs 'du'i ljon phreng*. The Complete Works, Vol. 24, 320-348.

## 『稀書目録』

A khu Ching Shes rab rgya mtsho. *Dpe rgyun dkon pa 'ga' zhig gi tho yig don gnyer yid kyi dunda bzhad pa'i zla 'od 'bu gyi snye ma*. *Materials for a History of Tibetan Literature*. Vol. 2, no. 73. New Delhi, 1963.

## 『究竟論真実明示鏡』

*Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos kyi 'grel bshad de kho na nyid rab tu gsal ba'i me long*. Ed. Klaus-Dieter Mathes. Nepal Research Centre Publications, no. 24. Stuttgart: Franz Steiner Verlag, 2003.

## 『究竟論要義』

rNgog Lo tsā ba Blo ldan shes rab. *Theg pa chen po rgyud bla ma'i don bsdus pa*. (a) Dharamsala, 1993; (b) NGMPP, Reel No. L 519/4≈東北蔵外 no. 6798; (c) 『カダム全集』 Vol. 1, 289-367.

## 『究竟論了義光明』

Sa bzang Mati Paṇ chen Blo gros rgyal mtshan. *Theg pa chen po'i rgyud bla ma'i bstan bcos kyi rnam par bshad pa nges don rab gsal snang ba*. (a) *The Collection works of the ancient Sa*

- Skya pa Scholars*. Kathmandu, 1999. Vol. 4, 1-520; (b) 『カダム全集』 Vol. 27, 211-624.
- 『究竟論了義明示宝灯』 gSang phu pa Blo gros mtshugs med. *Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos kyi nges don gsal bar byed pa'i rin po che'i sgron me*. (a) Tezu: Tibetan Nyingmapa Monastery, 1974 = 『カダム全集』 Vol. 17, 11-690; (b) Kathmandu: Sakya College, 1999. Vol. 3, 239-565.
- 『現観莊嚴論要義』 rNgog Lo tsā ba Blo ldan shes rab. *Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos kyi don bsdus pa*. (a) Dharamsala, 1993; (b) 『カダム全集』 Vol. 1, 125-201.
- 『サンブ寺座主譜明示鏡』 Rin chen 'byor ldan Byams pa Kun dga' 'byung gnas. *dPal ldan gSang phu'i gdan rabs gsal ba'i me long*. Otani Catalogue, no. 13981.
- 『四大寺・上下密院史』 Phur bu lcog Ngag dbang byams pa. *Grwa sa chen po bzhi dang rgyud pa stod smad chags tshul pad dkar 'phreng ba*. In: Three Karchacks. New Delhi, 1970.
- 『宗義全知』 sTag tsang Lo tsā ba Shes rab rin chen. *Grub mtha' kun shes kyi rtsa 'grel*. Beijing: Mi rigs dpe skrun khang, 2000.
- 『宗義蔵』 Klong chen rab 'byams pa Dri med 'od zer. *Grub mtha' mdzod. Mdzod bdun: The famed Seven Treasuries of Vajrayāna Buddhist Philosophy*. 6 vols. Gangtok, 1983.
- 『莊嚴経論要義のまとめ』 rNgog Lo tsā ba Blo ldan shes rab. *mDo sde rgyan gyi don bsdus las btus pa* (A summary of rNgog's *mDo sde rgyan gyi don bsdus* by an anonymous hand). In: *Legs par bshad pa bka' gdams rin po che'i gsung gi gces btus nor bu'i bang mdzod*. Xining: mTsho sngon mi rigs dpe skrun khang. 148-150.
- 『藏文史料彙編』（第三輯） *dPyad gzh'i yig cha phyogs bsgrigs*. 天津古籍出版社, 出版年不明.
- 『知識論決択善釈要集』 g'Tsang nag pa br'Tson 'grus seng ge. *Tshad ma rnam par nges pa'i ti ka legs bshad bsdus pa*. Otani University Tibetan Works Series, Vol. 2. Kyoto, 1989 = 『カダム全集』 Vol. 13, 13-434.
- 『知識論決択難語釈』 rNgog Lo tsā ba Blo ldan shes rab. *Tshad ma rnam nges kyi dka' gnas rnam bshad*. Krung go'i bod kyi shes rig dpe skrun khang, 1994.
- 『デブン寺古籍目録』 'Bras spungs dgon du bzhugs su gsol ba'i dpe rnying dkar chag. dPal brtsegs bod yig dpe rnying zhib 'jug khang. 2 Vols. Mi rigs dpe skrun khang, 2005.

- 『トゥンカル全集』      *Dung dkar Blo bzang 'phrin las. mKhas dbang dung dkar blo bzang 'phrin las kyi gsung 'bum.* Peking: Mi rigs dpe skrun khang.
- 『中観東方三師の千葉論』      *Phywa pa Chos kyi seng ge, dBu ma shar gsum gyi stong thun.* (a) Ed. H. Tauscher. WSTB 43. Wien, 1999; (b) 『カダム全集』 Vol. 7, 19-129.
- 『牟尼意趣明示』      *Sa skya Paṇḍita Kun dga' rgyal mtshan. Thub pa'i dgongs pa rab tu gsal ba.* Sa skya pa'i bka' 'bum. Vol. 5, 1-50 (fol. tha 1a-99a).
- 『プトン仏教史』      *bDe bar gshes pa'i bstan pa'i gsal byed chos kyi 'byung gnas gsung rab rin po che'i mdzod.* Collected Works. Ed. Lokesh Chandra. New Delhi, 1971. Part 24 (ya) , 633-1056 (fol. 1a-212 b).
- 『宝鬘五十頌』      *Gro lung pa Blo gros 'byung gnas. Rin po che'i phreng ba lnga bcu pa.* 『カダム全集』 Vol. 4, 3-6.
- 『法界蔵註』      *Klong chen rab 'byams pa Dri med 'od zer. Chos dbyings rin po che'i mdzod kyi 'grel pa pung gi gter mdzod. Mdzod bdun: The famed Seven Treasuries of Vajrayāna Buddhist Philosophy.* 6 vols. Gangtok, 1983.
- 『ロデンシェーラ布伝』      *gSer mdog Paṇ chen Shākya mchog ldan. rNgog lo tstsha ba chen pos bstan pa ji ltar bskyangs pa'i tshul mdo tsam du bya ba ngo mtshar gtam gyi rol mo.* The Complete Works. Thimphu, 1975. Vol. 16, 443-456.

## 二次資料

井内真帆

2006 「ペルツェク・チベット文古籍研究室編纂『デプン寺所蔵古籍目録』：(書評・紹介)」、『仏教学セミナー』83、16-24。

加納和雄

2001 「チベットにおける『宝性論』の受用と展開」、京都大学修士論文。

2003 「『宝性論』註研究 (I) : Phywa pa による『宝性論』I.26解釈」、『印度学仏教学研究』51-2、109-111。

2006 「サツジャナ著『究竟論提要』—著者および梵文写本について—」、『高野山大学密教文化研究所紀要』19、28-51。

小林守

1993 「チベットにおける如幻中観、無住中観をめぐる論争 (1) : rNgog lo chen/Tsong kha pa/mKhas grub rje」、『知の邂逅—仏教と科学』(塚本啓祥教授還暦記念論文集)、佼正出版社、473-487。

白崎顕成

1990 「Jitāri の Bodhicittotpādasamādānavidhi 研究 (2)」、『神戸女子大学教育諸学研究論文集』4、61-89。

1992 「Jitāri の Cittaratnaviśodhanakramalekha 研究 (1)」、『神戸女子大学教育諸学研究論文集』6、83-119。

西岡祖秀

1983 「プトゥン仏教史目録部索引 Ⅲ」、『文化交流研究施設研究紀要』6、37-201。

ツルティム・ケサン、藤仲孝司

2001 『ツォンカバ中観哲学の研究 Ⅲ』(ケートゥップ・ゲルク・ベルサンボ著『千葉大論』和訳と研究、上)、京都: 文栄堂。

羽田野伯猷

1986 「チベットにおける仏教観の形成について—菩提道灯・サンブ仏教学・カーダム宝冊等をめぐって—」、『チベット・インド学集成』第1巻チベット篇Ⅰ、277-303 (初出1963年、『文化』第29巻第2号)。

1987 「チベットの仏教受容の条件と変容の原理の一側面」、『チベット・インド学集成』第2巻チベット篇Ⅱ、1-195 (初出1968年、『東北大学日本文化研究所研究報告』第4集)。

藤田光寛

1988 「チベットにおける菩薩戒の受容の一断面」、『印度学仏教学研究』36-2、108-115。

御牧克己、森山清徹、苔米地等流訳

1996 『大乘仏典・中国日本篇15・ツォンカバ』、中央公論社。

Caumanns, V.

2006 *gSer-mdog Paṅ-chen Shākya-mchog-ldan (1428-1507) : Erschliesung einiger wichtiger Quellen zu seinem Leben und Gesamtwerk unter besonderer Berücksichtigung seiner scholastischen Ausbildung*. M.A. Thesis. University Hamburg.

Dietz, S.

1984 *Die buddhistische Briefliteratur Indiens: Nach dem tibetischen Tanjur herausgegeben, übersetzt und erläutert*. Asiatische Forschungen Band 84. Wiesbaden: Otto Harrassowitz.

Dram Dul

2004 *'Jig rten mig gcig blo ldan shes rab kyi rnam thar. Biography of Blo ldan shes rab. The Unique Eye of the World by Gro luṅ pa Blo gros 'byuṅ gnas. The Xylograph Compared with a Bhutanese Manuscript*. WSTB 61. Wien.

Everding, K.H.

1998 What happened in gSang phu Ne'u thog? Reflections on the rise of its Grva tshang bcu gsum and Bla khag bcu. In: *Tibetan Studies: Proceedings of the 8th Seminar of the International Association for Tibetan Studies, Bloomington 1998* (in press).

Gunter, H.

1969 *The Royal Song of Saraha: A Study in the History of Buddhist Thought*. University of Washington Press.

Jackson, D. P.

- 1987 *The Entrance Gate for the Wise (Section III): Sa-skya Paṇḍita on Indian and Tibetan Traditions of Pramāṇa and Philosophical Debate*. 2 vols. WSTB 17. Wien.
- 1993a rNgog Lo-tsa-ba's Commentary on the Ratnagotravibhāga. In: David P. Jackson (ed.) : *Theg chen rgyud bla ma'i don bsdus pa. Commentary on the Ratnagotravibhāga by rNgog Lotsaba Blo ldan shes rab*. Dharamsala: Library of Tibetan Works and Archives Library of Tibetan Works and Archives.
- 1993b rNgog-lo's Commentary on the *Abhisamayālamkāra*. Foreword to: *Lotsa ba chen po'i bsdus don*. Dharamsala: Library of Tibetan Works and Archives Library of Tibetan Works and Archives. 1-31.
- 1996 The *bsTan rim* ("Stages of the Doctrine") and Similar Graded Expositions of the Bodhisattva's Path. *Tibetan Literature: Studies in Genre. Essays in Honor of Geshe Lhundup Sopa*. Ed. J.I. Cabezón and R.R. Jackson. New York: Snow Lion. 229-243.
- Kano, K.
- 2005 Review on 'Gos Lo tsā ba gZhon nu dpal's Commentary on the Ratnagotravibhāgavyākhyā edited by Klaus-Dieter Mathes. *Journal of American Oriental Society* 125-1. 143-145.
- 2006 *rNgog Blo-ldan-shes-rab's Summary of the Ratnagotravibhāga: The First Tibetan Commentary on a Crucial Source for the Buddha-nature Doctrine*. Dissertation Thesis submitted to Hamburg University.
- Karma, P.
- 2005 *Mipham's Dialectics and the Debates on Emptiness. To be, not to be or neither*. London, New York: Routledge Curzon.
- Kramer, R.
- 1997 *rNgog Blo-ldan-shes-rab (1059-1109) , The Life and Works of the Great Translator*. M.A Thesis. University Hamburg.
- Mimaki, K.
- 1982 *Blo gsal grub mtha'*. Kyoto: 人文科学研究所.
- Napper, E.
- 1989 *Dependent-arising and emptiness: a Tibetan Buddhist interpretation of Madhyamika philosophy emphasizing the compatibility of emptiness and conventional phenomena*. Boston/London: Wisdom.
- Onoda, Sh.
- 1989 The Chronology of the Abbatial Successions of the gSang phu sNe'u thog Monastery. *Wiener Zeitschrift für die Kunde Südasiens* 33. 202-213.
- 1990 Abbatial Successions of the Colleges of gSang phu sNe'u thog Monastery. 『国立民族学博物館研究報告』15. 1049-1071.
- Sparham, G.
- 1996 A Note on Gnyal zhid 'Jam pa'i rdo rje: the Author of a Handwritten Sher phyin Commentary from about 1200. *The Tibet Journal* 21-1. 19-29.

van der Kuijp, L.

- 1983 *Contributions to the Development of Tibetan Buddhist Epistemology, From the eleventh to the thirteenth century*. Wiesbaden: Franz Steiner Verlag.
- 1987 The Monastery of Gsang phu ne'u thog and its Abbatial Succession from ca. 1073 to 1250. *Berliner Indologische Studien* 3. 103-127.
- 1989 An Introduction to Gtsang-nag-pa's *Tshad-ma rnam-par nges-pa'i tik-ka legs-bshad bsdus pa*: An Ancient Commentary on Dharmakirti's *Pramāṇaviniścaya*, Otani University Collection No. 13971. 『知識論決訳広註善釈要集』. Kyoto: Rinsen Book.
- 1994 On Some Early Tibetan *Pramāṇavāda* Texts of the China Nationalities Library in Beijing. *Journal of Buddhist and Tibetan Studies*. 1-30.

ツルティム・ケサン先生、三宅伸一郎先生、船山徹先生、井内真帆氏、川崎一洋氏、José Ignacio Cabezón 教授、Pascale Hugon 氏には草稿段階で多くの助言を賜った。記して謝意を表します。

## 註

- (1) サンプ・ネウトク (gSang phu sNe'u thogs) 寺は1073年、アティシャの3大弟子の一人、ゴク・レクペーシェーラプ (rNgog Legs pa'i shes rab) によってサン (gSang) 溪谷の下方において創建され、後にその甥であるロデンシェーラプによって同溪谷の上方に移転されたといわれる。13世紀、チャパの2世代後の時代には上院 (gling stod) と下院 (gling smad) に分裂し、さらに14世紀までには上下各院に都合13の学堂が成立していたという。これらの学堂の成立過程についての詳細は不明だが、上下各院に分裂した後、それぞれが独立的に寺院外部の複数の施主から経済的援助を受けるようになり、やがてそれに応じて13学堂が成立するに至ったと Everding 1998は推測する。同寺院では、カダム派の教学およびロデンシェーラプによって大成されたサンプ教学が学ばれ、12-15世紀の間には、サキャ派、カギュー派、ニンマ派、ジョン派、ボトン派、ゲルク派などの碩学たちが同寺院に学び、宗派的に多様な寺院となった。しかし15世紀以降、サキャ派やゲルク派の大寺院が創建されようになると、サンプ寺は中央チベット最大の学問寺としての地位を失い、衰退の一途を辿ることになった。

なおサンプ寺は創建当初からカダム派においても特異な地位を保っていた。羽田野1986: 285は次のように述べる。「この寺は伽藍法のみならず人法においても、律系たることを原則とした学問寺である。依って、カーダム派と密接な関係をもちつつも、カーダム派所属の寺院とはなっていないのである。」

いわゆるサンプ教学についての先行研究を挙げると枚挙に暇がないが、代表的なものとして、van der Kuijp 1983による初期サンプ教学の因明学についての研究がある。サンプ・ネウトク寺の歴史的側面については、『サンプ寺座主譜明示鏡』および、それを研究した van der Kuijp 1987、Onoda 1989、Onoda 1990を参照。また Everding 1998はサンプ寺の内部の13の学堂 (grwa tshang bcu gsum) と外部の10の末寺 (bla khag bcu) について歴

史のおよび地理的な考察を加えている。

- (2) たとえば van der Kuijp 1983はシャーキャチョクデンなどの記述をもとにして、ロデンシェーラプやチャバを始めとする、最初期のサンプ寺の学者たちの因明の体系を再構築することに成功している。
- (3) 『デブン寺古籍目録』および十六羅漢堂所蔵古書の由来については井内2006に詳しく紹介される。十六羅漢堂所蔵古書について『デブン寺古籍目録』7-8頁は次のよう述べる。

第5世ダライラマは、チベットでガンデン・ポタン政権を樹立して以降、チベットのいくつかの地方寺院や図書館に保管されていた貴重な写本を収集なきて、その間、パクモドゥ政権時代に建立されたパクモドゥの図書館や、デーパ・ツァンパ (sDe pa gTsang pa Karma bsTan skyong dbang po, 1606-1642) の時代のサムドゥツェ (シガツェ) の図書館、そして17世紀以前のカルマ派によって代々支配されていたツェラガン (rTse la sgang) の図書館などを統合なきたといわれ、それらの写本をデブン寺のクンガラワと十六羅漢堂とミワン堂の中にお収めになったという。(中略) デブン寺十六羅漢堂の図書館は第5世ダライラマのプライベート (sku sger) な図書館といわれ、しかもその図書館は久しい間封印されていたので、数百年の間、そのような図書館があることを知る人はほとんどいなかった。2、3年ほど前に我々は十六羅漢堂の目録を作成したとき、我々の想像を超え、17世紀以前の千を超えるチベットの学者たちによる著作、都合3千巻ほど、2万点以上の作品の古写本が得られた。これらの写本のうち95%以上は手書き写本である。(以上、拙訳)

十六羅漢堂の十六羅漢像は、チャンパ・リンポチュ (Phur bu lcog Ngag dbang byams pa, 1682-1762) 著『四大寺・上下密院史』(96-97頁)によると、明の皇帝より贈られ、次第してコンボ地方のカルマ派寺院ツェラガン (rTse lha sgang) に収蔵され、ダライラマ五世の時代に十六羅漢堂に将来されたという。

実は、十六羅漢堂の古写本は、これまで部分的に出版公開されている。たとえば天津古籍出版社から1988年に出版された『藏文史料彙編』(*dPyad gzhi'i yig cha phyogs bsgrigs*、全三輯)は、北京民族文化宮に所蔵されていたチベット古写本の影印集成であるが、この中には写本冒頭部に Phyi で始まる整理番号を持つ写本がいくつか含まれている。この記号は十六羅漢堂特有の整理番号であり、これによってその写本が十六羅漢堂に由来することがわかる。

- (4) 影印は概して明瞭であるが、ときおり行間註 (mchan) などの細かい文字が不鮮明な場合がある。また、写本欠損箇所、他の出版本によって補える場合は、活字化されたテキストが挿入されている。『カダム全集』第1巻683-705頁、第7巻16-18頁参照。完全に活字化されたテキストは2点ある。『カダム全集』第3巻339-574頁、第14巻7-14頁参照。
- (5) 各写本の所蔵場所については、『カダム全集目録』(31-107頁)の記述に基づいて本稿末所掲の資料に明示した。なお『カダム全集目録』序文(7-10頁)には全集の出版に至る経緯が次のように詳述されている。

センカル・トュプテンニマ氏のご助力のお陰で過去10年余りの間、チベットのあらゆる地にあった古写本と稀書を保存するべく努めていたとき、拝見しえたカ

ダム派のロジョンに関する多数の稀書をできる限り集めた。

その後、2002年7月3日以降、デブン寺で古写本を保存するために目録を作成したとき、ゴク翻訳師ロデンシェーラプの弟子筋を中心としたサンブ寺座主の系統、ナルタン寺の学系、スルブ寺の座主の系統などのカダム派ラマたちの著作、解説書、ロジョンなどで、従来題名さえ知られていなかった多くの作品を拝見する機会に恵まれた。

そして同年の10月13日朝、センカルリンポチェから電話を頂き、作業報告とともにカダム派ラマたちの著作稀書を拝見したことを申し上げると、彼は1時間30分(原本「3分」を「30分」に訂正)の間、話をなさって、我々の力を一つにあわせてカダム派の著作を編纂すべきだという有り難い提言を下された。そして親友のシェーラプサンポとケンポ・ドドゥルドルジェの両氏にカダム全集に関する話を申し上げたところ、両氏とも喜び、できる限り協力すると承諾して頂いた。ケンポ・ドドゥルドルジェ氏は、仕事が遅延しないように繰り返し激励なさって、カダム派の著作の編纂作業に専念すべしと忠告なされた。

そして2003年1月3日トップテンニマ氏が中国南部の街、深圳(hrin kren)にお越しになった際、面会に行き、デブン寺の古写本の保存方法とカダム全集の計画についてお尋ねすると、同氏は詳細な助言とともに必需品であるカメラと三台のコンピューターを下さるなど、事前の準備がすっかり整った。

2003年7月12日、デブン寺十六羅漢堂とミワン堂とクンガラワの古写本を保存する作業を終え、ガンデン寺のラムリムリンポチェの蔵書を保存する話を、デブン寺の主任ロサンワンチュクとガワンチュージン(= Gönpo Wangchen)の両氏に申し上げ、ゴク翻訳師の弟子筋を主としたカダム祖師たちの著作の写本原本をお借りしたいとお願いしたところ、両氏の快諾を得ることができた。そして20巻余りの写本をスキャン(zer bris kyis dpar bshus byas)して、カダム全集の編纂作業を実際に始めた。

2004年3月17日以降、セラ寺所蔵の古写本の保存に関連して目録を作成したとき、ゴク翻訳師ロデンシェーラプ、トルンバ・ロドゥージュンネー、ツェン・カワオチェの弟子筋の著作をゲルク派全集の編纂の傍らでスキャンした。同年8月25日以降、シャル寺とギャンツェ・ペンコルチューデの古写本を保存する作業を行ったとき、アティシャの著作数点と、チャ・チェーカパの宗義書、ツァンナクパ、チャンチュブキャブ、キトン・ジャムヤンタクパギェルツェンなどの『入菩薩行論註』や、チュミク・センゲーペルの著『知識論決訳註』、ジョンチャンの著『阿毘達磨集論註』など、都合20巻をスキャンした。

ポミチェンドゥクからゴク・ロデンシェーラプ著『究竟論概説』やチャバ・チューキセンゲ著『仏教徒と異教徒の宗義』や『阿毘達磨集論註』など都合11巻を、米国のTBRCのジャムヤン氏(= E. Gene Smith)からはニェルシク・ジャンペードルジェの著『般若経大註』やソナムハワン(= bSod nams lha's dbang po)の『カダム仏教史』やキョトンの伝記などの貴重書を、またカムトゥル・ソナムトンドゥブ氏からはゴク翻訳師の『正書法要義』を、イギリス在住のブータン出身のカルマブンツォー氏からは『ベチューリンチェンブンバ』を、日本在住のカンカル・ツル



ティムケサン氏からはツェンナクパの『知識論決択註』などの写本をお借りした。

その他、ペンポのナレンドラ寺、カムのパルブン寺、ツルプ寺など、カムやウーのあらゆるところから集められた写本を今ここに出版いたします。(以上、拙訳。)

- (6) 『カダム全集』にはアク・シェーラブギャムツォ著『稀書目録』に記載される貴重な資料も多数含まれている(下掲註30-33参照)。なお、全集所収の3点の写本影印版はすでに出版されている。すなわちロデンシェーラブ著『正書法要義』(第1巻所収)は天津古籍出版より、そしてツェンナクパ著『知識論決択善釈要集』(第13巻所収)は京都より1989年に、またロトゥーツンメ著『究竟論了義明示宝灯』(第17巻所収)はTezuより1974年に出版された。
- (7) カダム派の稀書としては、たとえばグンタン・ロドゥーギャムツォ(1851-1930)によるロデンシェーラブ著『現観莊嚴論要義』の木版開版(1910-1920年代)、及びその弟子ルブム・シェーラブギャムツォ(Klu 'bum Shes rab rgya mtsho, 1884-1968)によるロデンシェーラブ著『究竟論要義』の木版開版(1918年)が例として挙げられる。『稀書目録』で著名なアク・シェーラブギャムツォ(1803-1875)もこのタシキルの伝統に属する。Jackson 1993b 参照。
- (8) 整理番号が示す内容については『デブン寺古籍目録』序文14-15頁参照。
- (9) その他「カギューの法など」(Phyi Ma)が9点、「律」(Phyi Wa)が5点、「因明」(Phyi Zha)が4点、「阿毘達磨」(Phyi Dza)が5点、「時輪」(Phyi Ka)が2点、「チャクラサンヴァラ」(Phyi Kha)が1点収録される。ただし、しばしば分類ミスがみられるので注意が必要である。
- (10) 『カダム全集第2輯』に収録予定の作品はたとえばギャマル・チャンチュプタクの『中観二諦確定』や『入菩薩行論要義』などがある。『カダム全集目録』57頁参照。
- (11) 本稿筆者はサンブ寺下院ドゥニン堂の14世紀の学者ロドゥーツンメ著『究竟論了義明示宝灯』の読解を行い(加納2001)、続いてロデンシェーラブ著『究竟論要義』の校訂と訳註研究を行った(Kano 2006)。
- (12) チベット仏教後伝期においてLo chen「大翻訳師」の称号をもつ翻訳者には、ロデンシェーラブ以外にもリンチェンサンポなどがいる。
- (13) ロデンシェーラブの伝記資料とその研究史についてはKramer 1997に、また彼の思想に関する研究史についてはKano 2006に詳しく示されているため、ここでは割愛する。彼の伝記については『カダム全集』第1巻79-93頁および『カダム全集目録』40-47頁にも手際よくまとめられている。
- またレクペーシェーラブについては『カダム明灯史』147-149頁および羽田野1986:277-283などを参照。
- (14) 中央チベットにおけるロデンシェーラブの活動地についてはトルンパ著『ロデンシェーラブ伝』(Dram Dul 2004:71.14-72.10)を参照。
- (15) 各作品の表紙(1a)、冒頭部分、奥書を示すと次の通りである。

(1) [表紙:] dag yig nye mkho bsdus pa shākya'i dge slong blo ldan shes rab kyis mdzad pa bzhugs so //、[冒頭部分:] (1b1) no mo guru / dag yig nyer mkho bsdus pa bzhugs zhes bya ba / 'jam pa'i dbyangs la phyag 'tshal lo //、[奥書:] (9a4) dag yig

nye mkho bsdus pa (9a5) zhes bya ba/ shākya'i dge slong blo ldan shes rab kyis phyogs gcig tu sdebs pa'o // // sarba mangga lam // 1 zhus so //

(2) [表紙:] 欠、[冒頭部分:] (1a1) thams cad mkhyen pa la phyag 'tshal lo // bcom ldan 'das ma shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i snying po rgya cher bshad pa 'di don bsdus pa ni rnam pa bzhi te / ngag dang po'i don dang / mdo'i lus rnam par gzhag pa dang / yan lag rnam par dbye ba dang / yongs su rdzogs pa'i bya ba'o //、[奥書:] (4b7) shes rab snying po'i rgya cher 'grel gi bshad pa / lo tsa ba slob dpon blo ldan shes rab kyis mdzad pa rdzogs s-ho //

(3) [表紙:] shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i man ngag bstan bcos mngon par rtogs pa'i rgyan 'grel pa [...] rin po che'i sgron ma zhes bya ba lo tstsha ba blo ldan shes rab kyis mdzad pd bzhugs so // blo ldan shes rab phar phyin 'grel pa //、[冒頭部分:] (1b1) bsam dang sbyor ba las 'khrungs pa'i // dpa' bo de dang de'i bka' // nyes 'joms de sgrub tshogs bcas la // sgo gsum dang bas bdag nyid 'dud // 'phags pa byams pa la phyag 'tshal lo // gang gi sgrub tshogs ...、[奥書:] (39a7) shes rab kyi pha rol tu phyin pa man ngag gi stan [= bstan] bcos don bsdus pa dge slong blo ldan shes rab kyis rab tu sbyar ba'o // // slob dpon bstan pa'i sgron me bdag nyid che // blo ldan byang chub sems dpa' rab grags pa // zab mo'i 'grel pa don zab tshig rling sbyar // mi gsal blo can skye bo'i yul ma yin // des na dman rnams mos pa dka' na yang // (39a8) mkhas pa rnams kyis yid ches bya ba'i phyir // mtshan ni rin po che'i sgron me yin // yang na rgyan gyi rgyan ces bya bar gzung // // dge'o // //

(4) [表紙:] (1a 上部欄外) Phyi Tsha 60、[冒頭部分:] (1a1) sangs rgyas byang chub sems pa [= dpa'] thams cad la phyag 'tshal lo // nyes pa'i dgra bcom yon tan mchog gi skal mnga' zhing // sdug bsngal myes gdungs rmongs pas mdongs pa'i 'gro rnams la // byams pas skyob mdzad ji bzhin don can mtshan ldan pa // than bzhed dpag myed gnyis ldan khyod la mgos phyag 'tshal // theg pa chen po mdo sde rgyan gyi don (1a2) mtha' dag gsum du gnas te / skabs sgrub pa dang / spro ba bskyed pa dang // chos brjod pa'o //、[奥書:] (24b11) mdo sde rgyan gyi don bsdus lo tsa ba blo ldan shes rab kyis sbyar ba'o // //

(5) [表紙:] Phyi Tsha 116 / dbu mtha'i don bsdu bzhugs s-ho //、[冒頭部分:] (1b1) bde bar gshegs pa rnam pa thams cad dang ldan pa'i chos kyi 'khor lo rab tu bskor bas 'gro ba'i sdug bsngal kyis 'khor lo rab tu zhi bar mdzad pa la rab tu gus pas phyag 'tshal lo // bstan 'di shes par bya ba dang rjes su bsgrub pa dang thob pa'i mtshan nyid gsum mo //...、[奥書:] (13a7) dbus dang mtha' rnam par 'byed pa'i don bsdus pa dge slong blo ldan kyis sbyar ba'o //

(6) [表紙:] rnam bshad snying po brgyan ma tshang ba dang grub mtha'i rnam gzhag bris ma gcig / 'jam dbyangs dpa' gcig gi grub mtha' ma tshang ba gcig /、[冒頭部分:] (1b1) 'jig rten kun dang myi mthun pa'i // zab mo'i don can bstan chos 'di // thugs rjes bdag cag la gsungs pa // chos la spyen gyur de la 'dud // ...、[奥書:] (40a3) theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos kyi don bsdus pa // sgra ba'i seng

ge / ngag gi dbang phyug / 'chad gra'i slob dpon / sgra sgyur gyi lo tsa ba chen po / rngog dge slong blo ldan shes rab kyis mdzad pa (40a4) rdzogs s.hyo // he he // //

(7) [表紙:] Phyi Zha 21 / mtshan nyid kyis chos、[冒頭部分:](1b1) thams cad mkhyen pa la phyag 'tshal lo // mchod pa brjod pa ...、[奥書:] (21a4) shag kya'i dge slong blo ldan shes rab kyis sbyar ba / bam po lnga pa'i bshad pa / rdzogs s-hō // //

(8) [表紙:] Phyi Zha 83 / lo chen gyi mdzad pa'i rnam nges kyis ti ka bzhugs so //、[冒頭部分:] (下掲註20参照)、[奥書:] (写本が欠損しているため活字本から転載されている)

(9) [表紙:] Phyi La 251, rngog lo chen po blo ldan shes rab kyis spring yig bdud rts'i thig le lags so、(冒頭部分と奥書は本稿校訂テキストを参照)。

(16) *Theg pa chen po rgyud bla ma'i don bsdu pa*, Dharamsala, 1993; *Shes rab kyis pharol tu phyin pa'i man ngag gi bstan bcos kyis don bsdu pa*, Dharamsala, 1993; *Tshad ma rnam nges kyis dka' gnas rnam bshad*, Krung go'i bod kyis shes rig dpe skrun khang, 1994.

(17) 『究竟論要義』(Dharamsala, 1993, fol. 66a1-2) : ma phyi bris rnying gcig las ma rnyed cing de yang lhag chad nor 'khrul gyi yig skyon che bar brten shin tu dpyad dka' bar snang na yang / rang blos gang 'phog (*em.*; dpog MS) gis phra zhing zhib par brtags pa'i khul gyis zhus dag lan gcig bgyis te phul ba par yig tu 'khod cing. 「『究竟論要義』のテキストは」古写本一本以外は得られず、それも重複、省略、混乱といった誤りがたくさんあったので、[テキストを]吟味するのが大変困難な様子であったが、私の知識の限りを尽くして詳細に検討して、一度校閲してから [ペーマワングェルに] 送ったものを版木の底本となして...」。Jackson 1993a:15参照。

(18) ロデンシェーラプ著『究竟論要義』の校訂テキストを含む Kano 2006の改訂版は、David Jackson 教授の編集する学術叢書 Contributions to Tibetan Studies (Wiesbaden: Dr. Ludwig Reichert Verlag) から出版を予定している。

(19) 『現観莊嚴論要義』奥書 (99a5-6) : ... lo chen blo ldan shes rab kyis mdzad pa'i ti ka chung 'di sngar mdo smad dbus gtsang kun tu btsal kyang dpe ma rnyed par skabs kun mkhyen 'jam dbyangs bzhad pa'i phyag dpe khang nas dpe bris ma zhib rnyed par brten nas bris kyang slar don gnyer can rnams kyis dpe dag po rnyed na zhib dpyod 'tshal // zhes pa 'di ni dge slong blo gros rgya mtshos bris pa'o // Jackson 1993b:4参照。

(20) 活字本の底本に使用された北京の民族文化宮所蔵写本については、van der Kuijp 1994: 6-7に次のように記載される。

Tshad ma rnam par nges pa'i dka' gnas rnam par bshad pa. CPN no. 005153 (1). Fols. 123. Incomplete: fol. 1 is missing. The colophon also states that "A text/teaching to be given by the Śākya monk 'Dar Rin chen 'bar" (shag kya'i dge slong 'dra rin chen 'bar gyis sbyin par bya ba'i chos so //).

(21) ロデンシェーラプ著『知識論決択難語積』活字本の冒頭欠損箇所に対応する、セラ寺写本

の第1葉は以下の如くである(旧綴り字はそのまま残した)。『カダム全集』第1巻419-420頁:

(1a) Phyi Zha [83] / lo chen gyi mdzad pa'i rnam nges kyi ti ka bzhugs so //

(1b1) thugs rje chen po la phyag 'tshal lo //

sangs rgyas gzhan phan dgongs pa can // kun bzang rab zhi gnyis myed cing //

thams chad khyab pa'i sku ldan pa // skyob pa mchog la phyag 'tshal lo //

gzhung rtsom rnam kyi blo la yang // gang zhig legs par myi gsal ba //

tshad mas 'di nyid rka ba (1b2) rnam // de bzhin tu ni 'dir nges bya //

'di ltar de nyid 'dod pa rnam // de nyid la ni rnam sdang nas //

'dod pa'i don ma thob pa te // log pa'i rtog ges bsul pa yin // //

dang po'i tshigs su bcad pas ni bstan chos rtsom pa'i rgyu bstan to // de yang  
gsum ste / 'bras bu dang / spyi'i don dang / tshig gi don to //

slob dpon chos (1b3) mchog ltar na dang po ni slob dpon la smod pa sdug bsngal  
gi rgyu nyid du nges par bya ba'i don tu'o //

spyi'i don ni kun las bstus pa bshad par bya ba nyid du grub pa'o // de yang  
bzhis ston te / myi bden pa'i nyes pas smod pa de'i gzhung bshad pas spang par  
nus pa dang / de spangs pa 'dod pa'i 'bras bur grub pa dang / gzhung ma bshad  
par de spang myi nus pa (1b4) dang / myi bden pas nyes pas smod pa nyid kyi  
shes par byed pa'o //

de yang / nyer bsten 'jig rten rgyal mdzad de la rmongs pas cung zad smad byas  
na'ang // don myin skye bar 'gyur ba yin pas / de bzlog pa'i don tu / de yi lugs ni  
gsal bar bya // zhes bya bas ni dang po'o //

'o na bstan chos rtsom pa'i skabs su / slob dpon la brnyas pa ldog pa 'bras (1b5)  
bur myi 'thad de / skabs su ma bab pa'i 'bras bu don tu gnyer ba ni rtog pa dang  
myi ldan pa yin pa'i phyir ro snyam na / brtse' bas / zhes smos so // bstan chos  
rtsom pa ni brtse' bas yin gyi gzhan gyis ni ma yin la / de ldan pa yang gzhan  
sdug bsngal gyi rgyu dang bral bar 'dod do //

'bras bu'i mtshan nyid kyang 'dod pa yin pas de skabs su bab pa'i (1b6) 'bras bu  
yin no // dper na log pa'i shes pa las 'jug pa'i sdug bsngal gyi rgyu spang par 'dod  
pas yang dag pa'i shes pa bstan pa ltar / slob dpon la smod pa'i sdug bsngal gyi  
rgyu spang bar 'dod nas de'i gzhung 'chad pa yin te / des na brtse' bas 'jug pa'i  
skabs su don tu gnyer par bya bar rigs par 'dra ba kho na yin no //

de ltar yang rang rga'i [= dga'i] (1b7) rnam nges las kyang kun las bstus pa'i don  
nges pas rmongs pa ldog pa na 'dod pa de spang bar nus so // des na de'i gzhung  
'chad pa'i 'bad pa lhag pa ni don myed do snyam na / 'jig rten blo gros blun po 'dis  
ni de tshig brling ba ma bshad na / gsal bar myi shes pas de yi lugs ni gsal bar  
bya zhes 'brel te / 'dis ni don gsum pa brjod do //

gal te myi (1b8) bden pa'i nyes pas smod na sdug bsngal gyi rgyur 'gyur ba  
bden yang / 'dir ni myi bden par ma grub pas smod pa yang sdug bsngal gi [= gyi]  
rgyur ma grub po snyam na / rkang pa dang po brjod do // bsdu pa'i don to //

tshig gi don ni sla'o //

gang dag phyed snga mas ni zlos pa spangs la / phyi mas ni rang rgyud spangs  
so zhes 'chad pa de ni myi 'thad de / (2a1) spang zhes bsdu ba myed pas brjod byed  
ma yin pa dang / [...] (以上、活字本欠損箇所)

(22) 『カダム全集』所収のテキストは、この末尾欠損箇所を活字本に基づいて補っている。『カダム全集』第1巻683-705頁。

(23) van der Kuijp 1994:6には次のように記される。

Lo chen gyi mdzad pa'i rnam nges kyi ti ka. CPN no. 5139 (1). Indigenous catalogue no. phyi zha 83. Fols. 132. Incomplete with interlinear notes: last portion is missing; folios 85 and 86 occur on one single page; folio 107 occurs twice, being divided in an "upper" (gong ma) and "lower" ('og ma) page.

(24) 『デブン寺古籍目録』序文14頁参照。

(25) 井内2006によると、デブン寺のダライラマ五世の蔵書は、ダライラマ十三世の時代にその一部がポタラ宮に移され、さらにそれらは1962年に北京民族文化宮に移され、そしてパンチェンラマ十世がチベットへ帰還した後、大半がチベット自治区に返還されたという。しかしそれらはデブン寺だけではなく、種々の寺院に分配され、その数、およそ千点ほどであったという。したがって全集所収の『知識論決択難語釈』の写本は、現在はセラ寺の所蔵だが本来はデブン寺十六羅漢堂にあったものであろう。

(26) ロデンシェーラプによる『大乘莊嚴經論』I.2の理解は、ジャムヤンガロによって要約されている。加納2006:34参照。またロデンシェーラプの『大乘莊嚴經論要義』を要約したテキストとして、著者不明の『莊嚴經論要義のまとめ』(*mDo sde rgyan gyi don bsdus las btus pa*) が現存する。Jackson 1987:148 (註8) 参照。

(27) トルンパ著『ロデンシェーラプ伝』(Dram Dul 2004:47-49) を参照。ロデンシェーラプの全作品リストについては羽田野1987:153-155、van der Kuijp 1983:34, 57、Kramer 1997、Kano 2006を参照。

(28) トルンパの挙げる43点の作品のほか、以下の8点がロデンシェーラプの著作として知られている。なお下記の括弧内に典拠として示した『ロデンシェーラプ伝』は、シャーキャチョクデンの著作である。

1. *sPrings yig bdud rts'i thig le* (西岡1983、3106番; 『ロデンシェーラプ伝』)
2. *Khri bkra shis dbang phyug nam mkha' bstan la spring pa kha che gser slong* (西岡1983、3107番; 『ロデンシェーラプ伝』)
3. *sKyes bu gsum gyi lam gyi rim pa tshigs su bcad pa* (『ロデンシェーラプ伝』)
4. *gZe ma ra mgo* (Karma 2005:242[註53])
5. *Chos mngon pa mdzod kyi 'grel bshad* (Dram Dul 2004:xiii)
6. *'Jam dpal yon tan ye shes bzang po'i bstod bsgrub bzhugs pa'i dbu phyogs* (『デブン寺古籍目録』586頁)
7. *rNgog blo ldan shes rab kyi bstan rim* (『稀書目録』11107番. Cf. Jackson 1996:238)
8. *rGyud bla ma'i bsdus don* (The British Library, IOL, KK V. b. 35h)

上掲8はスタイン (Sir Aurel Stein, 1862-1943) がカラホトにおいて1914年に発見した

写本で、現在大英図書館に保存されている。当作品は『宝性論』の科文であり、題名が類似する『究竟論要義』とは完全に異なる作品である。写本は都合2葉からなり、第1葉が欠けている。欠損箇所は、同著者の『究竟論要義』やチャパによる『究竟論要義』(*rGyud bla ma'i bsdus don*)によって想定して補うことができる。このカラホト写本の存在については大谷大学井内氏によりご教示いただき、筆者は2006年8月にボンで開催された国際チベット学会(IATS)において同作品の調査結果を報告した。

- (29) 現存する11点の著作の内、公開されているものが9点、非公開のものが2点ある。公開されている9点の著作はすべて『カダム全集』に収録される。一方、非公開の2点とは、前註所掲のデプン寺十六羅漢堂所蔵の'*Jam dpal yon tan ye shes bzang po'i bstod bsgrub bzhugs pa'i dbu phyogs*と大英図書館所蔵の*rGyud bla ma'i bsdus don*である。

また、『デプン寺古籍目録』1656頁には以下の作品がロデンシェーラプの著作として挙げられているが詳細は不明である。*Byams chos kyi 'grel pa*, *Phyi La* 360, no. 018819, *Bris ma dbu can*, 1 fol., 65.3 x 10.1 cm.

- (30) トルンパの著作はこれまで3点が公開されていた。すなわち *Blo ldan shes rab kyi rnam thar* (Kramer 1997; Dram Dul 2004; 『藏文史料彙編』[*dPyad gzh'i yig cha phyogs bsgrigs*、第3輯第3巻、天津古籍出版社])、*Blo ldan shes rab kyi bstod pa* (Jackson 1993b:8-15)、*bsTan rim chen mo* (Asian Classics Input Project, No. SE 0070) である。シェーラプギャムツォの『稀書目録』にはトルンパの著作9点が挙げられ(van der Kuijp 1983:293[註209]参照)、『カダム全集』には7点が収録される(内5点は『稀書目録』所掲作品)。以下にそれら都合12点の著作をまとめて提示する。なお括弧内の記号Aはアク・シェーラプギャムツォ著『稀書目録』とその番号を、そして記号Kは『カダム全集』に含まれる著作を各々示し、未発見の作品にはアスタリスク(\*)を附した。

1. *Blo ldan shes rab kyi rnam thar bstod 'grel* (A 10903; K)
2. *Blo ldan shes rab kyi bstod pa* (Jackson 1993b)
3. *bsTan rim chen mo* (A 11108; K)
4. *bsTan rim chen mo'i don bsdus* (A 11108; K)
5. *Rin po che'i phreng ba lnga bcu pa* (K)
6. *\*Chos chung brgya rtsa'i sa bcaad* (A 11109)
7. *Nyi khri'i 'grel pa* (A 11492; K)
8. *Phar phyin gyi tikka* (A11495; K)
9. *mDo sdud pa'i 'grel pa* (K)
10. *\*rGyud bla ma'i tikka* (A11332)
11. *\*mDo sde rgyan gyi 'grel pa* (A 11493)
12. *\*Byang sa'i 'grel pa* (A 11494)

上掲3の正式な題名は『善逝の教説の宝に入る修行道階梯の解説』(*bDe bar gshegs pa'i bstan pa rin po che la 'jug pa'i lam gyi rim pa rnam par bshad pa*)といい、サキャバンディタやツォンカパなどの大学者がこの作品を依用している。たとえばサキャバンディタは仏の十力を解説するために自著『牟尼意趣明示』(*Thub pa'i dgongs gsal*, 91b-92a)の中で、『教説階梯大論』の一節(ACIP, SE0070, 523a-524a1)をそっくり借用しており、ツォ

ンカパは自著『道次第大論』の奥書において『教説階梯大論』を主要な典拠とした旨を述べる。

全集所収の『教説階梯大論』ウチェン字写本の奥書には、ロンドルラマ (Klong rdol Ngag dbang blo bzang, 1719-1794) の書記ダムチューヤルペー (Drung yig Dam chos yar 'phel) が、入手困難な『教説階梯大論』の写本を、チャンパ・リンポチュ (Phur bu lcog Ngag dbang byams pa, 1682-1762) 所蔵本から書写し、校閲した旨が記されるので、これが18世紀中葉の写本であることがわかる (『カダム全集』5巻239頁 = fol. 119a5-6参照)。また、ロンドルラマに木版開版を命じられたが、財政上の都合によって叶わなかったという (同237頁 = fol. 118a5-7参照)。

一方、従来知られていた木版印刷本 (Jackson 1996:231) は、第69代ガンデン寺座主 (Byang chub chos 'phel, 1816-1822在位) の命によって、摂政ガワンジャムベルツルティムギヤムツォ (1819-44在位) が、1820-1830年代にショル印経院から開版したものである。『教説階梯大論』(ACIP, SE0070, 547b6-548a4) および Jackson 1993b 参照。

また、上掲4については Jackosn 1996:248および241 (註2) を参照。8. *Phar phyin gyi tikka* (= 'Grel chen gyi rnam bshad) はデプン寺ゴマン堂所蔵の木版印刷本であり、タシペルデン (bKra shis dpal ldan) による開版と奥書にある (17世紀、ゴマン堂のタシペルデンか)。上掲12はジョンヌベル著『究竟論真実明示鏡』(4.23, 574.5) にも言及される。Kano 2005参照。

(31) チャパの著作は従来、『中観東方三師の千葉論』の1点のみが公開されていた。シェーラプギヤムツォの『稀書目録』には16点の著作が挙げられ (van der Kuijp 1983:63, 299 [註259]と『中観東方三師の千葉論』のTauscherによる序文参照)、『カダム全集』には18点の著作が収録され、さらに『カダム全集目録』62頁には全集未収録の2点、そして『デプン寺古籍目録』1822頁には1点が言及される。以下にそれら都合27点を提示する。括弧内に使用した記号は前掲註30に従う。

1. *dBu ma bden gnyis kyi tikka* (A 11317; K)
2. *dBu ma bden pa gnyis kyi don bsdus pa* (K)
3. *dBu ma snang ba'i tikka* (A 11318; K)
4. *dBu ma rgyan gyi tikka* (A 11319; K)
5. *dBu ma'i bsdus pa che* [= *dBu ma shar gsum gyi stong thun/dBu ma de kho na nyid kyi snying po?*] (A 11321; K)
6. *\*dBu ma'i bsdus pa chung* (A 11321)
7. *\*sPyod 'jug gi tikka* (A 11076)
8. *sPyod 'jug bsdus don* (K)
9. *Slab btus kyi bsdus don* (K; 『カダム全集目録』)
10. *Slab btus kyi 'grel pa* (『カダム全集目録』)
11. *rGyud bla ma'i tikka* (A 11320; K)
12. *rGyud bla ma'i bsdus don* (K)
13. *\*Phar phyin tikka* (A 11473)
14. *mDo sde rgyan gyi 'grel pa* (A 11474; K)

15. *mDo sde rgyan gyi lus rnam bzhag* (K)
16. *\*dBu mtha' rnam 'byed kyi 'grel pa* (A 11474)
17. *Chos chos nyid rnam 'byed kyi 'grel pa* (A 11474)
18. *Tshad ma rnam nges kyi 'grel pa* (A 11803; K)
19. *Tshad ma rnam nges kyi bsdus don* (K)
20. *Tshad ma'i bsdus pa yid kyi mun sel rang 'grel dang bcas pa* (A 11804; K)
21. *\*Tshad bsdus yid kyi mun sel rkyang pa gcig* (A 11805)
22. *\*Shes bya gzhi lnga'i bshad pa* (A 11806)
23. *So thar mdo'i 'grel pa* (K)
24. *'Od ldan zhes bya ba'i tikka tshig don rab gsal* (K)
25. *dGe tshul rnams kyi bslab pa'i rim pa ston pa'i rnam bshad* (K)
26. *Phyi nang gi grub mtha'i rnam bzhag bsdus pa* (A 11910; K)
27. *dPal lha mo nam mkha'i gos can gyi gtor chog* (『デブン寺古籍目録』)

上掲11はシヨヌベル著『究竟論真実明示鏡』（4.23, 574.5）にも言及される。

(32) ツァンナクパの著作はこれまで、『知識論決択善釈要集』の1点が公開されていた。『稀書目録』には8点の著作が挙げられ（van der Kuijp 1989:2）、『カダム全集』には9点の著作が収録され、また『カダム全集目録』75-76頁にも3点の全集未収録作品が挙げられる。以下に彼の著作、都合17点を挙げる。括弧内に使用した記号は前掲註30に従う。

1. *\*dBu ma'i rnam bshad* (A 11329)
2. *\*dBu ma'i bsdus pa rgyas pa* (A 11330)
3. *\*dBu ma'i bsdus pa bsdus pa* (A 11330)
4. *\*rGyud bla ma'i tikka* (A 11331)
5. *\*bSlab bstus 'grel pa* (A 11065)
6. *sPyod 'jug 'grel pa* (A 11066; K)
7. *rNam nges tik chen* (A 11807; K)
8. *bsTan pa la byi dor bya ba* (K)
9. *bZhi brgya pa'i dka' gnad bshad pa* (K)
10. *sDom pa nyi shu pa'i 'grel ba* (11097?; K)
11. *Byang chub sems bskyed pa'i spyi mthun* (K)
12. *sKyabs 'gro'i spyi mthun* (K)
13. *byang chub sems pa'i sa'i dka' 'grel* (K)
14. *\*Shes rab kyi pha rol tu phyin pa'i mdo sbyor* (『カダム全集目録』)
15. *Grub mtha'i rnam 'byed* (『カダム全集目録』)
16. *'Phags pa bsdus pa'i bsdus don* (K)
17. *\*Phya pa chos kyi seng ge'i rnam thar dad pa'i 'od zer phyogs brgyar 'gyed pa* (A 10903)

上掲17チャパの伝記は、トゥンカル・リンポチェによると7葉よりなる写本だというが、『カダム全集』編者は未見だという。『トゥンカル全集』、vol. Kha、193頁（*phya pa chos seng gi rnam thar dad pa'i 'od zer phyogs brgyar 'gyed pa / gtsang nag pa brtson*）



'grus seng ges mdzad pa / shog grangs / 7)、および『カダム全集目録』60頁参照。上掲4はシュンヌベル著『究竟論真実明示鏡』(4.24, 574.6)にも言及される

(33) リンチェンサンポは翻訳師としての偉大な業績を残しながらも、その自著はこれまで一つも発見されていなかった。全集所収の著作は次の4点(都合21葉)である。

1. *dPal 'khor lo bde mchog lū i pa'i bstod pa yid bzhin nor bu*
2. *Rab tu gnas par byed pa don gsal* (写本二種)
3. *mNgon par rtogs pa'i dka' ba'i gnad bshad pa* (A 11048)
4. *bDe ba can gyi smon lam*

各作品の表紙頁と奥書は次のごとくである。

1. [表紙:] *dpal 'khor lo bde mchog lū i pa'i bstod pa yid bzhin nor bu bzhugs s-ho* // [奥書:] (2a5) *lo tstsha ba rin chen bzang pos bstod pa rdzogs s-ho // dge'o //*

2. [表紙:] *Phyi Mi 721 / rab tu gnas par byed pa don gsal bzhugs lags* // [奥書:] (2b2) *rab tu gnas (2b3) pa'i rgyud dang slob dpon kun dga' snying po las stsogs pas mdzad pa'i bstan bcos rnam gcig na'ang [ma] rdzogs shing gzhung mang du 'thor ba'i phyir / de dag cig tu lag tu blang pa ma (2b4) 'ongs pa'i skye bo blo chung pa rnam la phan pa'i phyir // shag kya'i dge slong rin chen bzang pos nye bar sbyar ba'o // rdzogs s-ho // (2b5) dge bar byed pa'i dpe' lags // zhal gro // dge'o //* (以上37-40頁所収写本より。71-72頁所収写本もほぼ同じ。)

3. [表紙:] *Phyi Kha 77 / dpal mngon par rtogs pa'i dka' ba'i gnas bshad pa lo tsā ba rin chen bzang pos mdzad pa bzhugs s-ho* // [奥書:] (13b3) *dpal mngon par rtogs pa'i bshad pa bla ma dpal mar me mdzad ye shes kyi zhal mnga' nas gsung (13b4) pa / lo tsā ba chen po dge slong rin chen bzang pos ma bsnan ma chad par bris pa rdzogs s-ho //*

4. [表紙:] *Phyi La 345 / bde ba can gyi smon lam bzhugs s-ho* // [奥書:] (2b6-8) *tshe yi mthar yang rgyal ba 'od dpag med 'khor dang bcas pa mthong zhing de ma thag / bu bu bde ba can du tshur shog ces / 'dren pa'i gsung gis dbugs 'byin thob par shog ces / lo tstsha ba rin chen bzang pos thon mthing [= mtho lding?] gi gtsug lag khang du sbyar ba dge'o // [...] (3a3) 'di'i dge bas bdag gzhan sems can rnam zhig mchog bde ba (3a4) can du skye bar shog //*

上掲1と2については川崎一洋氏が校訂・和訳研究を準備している。同氏によると、1. はルーイーパ流のチャクラサンヴァラ六十二尊曼荼羅の諸尊を17の偈で賛嘆するものであり、2. は寺院建立・仏像開眼のための一連の儀礼を7偈でまとめたものである。

3. は、その帰敬偈 (fol. 1b2-3) と奥書によるとディーパンカラシュリージュニャーナ (Mar me mdzad ye shes) の教説をリンチェンサンポが書き留めたものである。川崎氏によると『チャクラサンヴァラ・アピサマヤ』に対する註釈であるという。

4. は、奥書の *thong mthing gi gtsug lag khang* がトリン寺を指すならば、その著作年は996年以降に限定される。

(34) リンチェンサンポの著作と同じく、パツァブ・ニマタクの自著が公開されたのは今回が初めてである。以下の2作品が収録される。

1. *Tshig gsal ba'i dka' ba bshad pa*
2. *bZhi brgya pa'i rgya cher bshad pa'i bsdus pa'i don*

各作品の表紙頁と奥書は次のごとくである。

1. [表紙:] [Phyi] Tsa 24 / slob dpon zla ba grags pas mdzad pa'i dbu ma'i 'grel pa zhes bya ba bzhugs so // 'di slob dpon zla grags kyis mdzad pa min par pa tshab lo tsas mdzad pa yin 'dug // [奥書:] (88a9) slob dpon zla ba grags pa'i zhal snga nas kyis sbyar ba / tshig gsal ba'i dka' ba bshad pa / bla ma tshong dpon pan di ta'i (88a 10) gdam ngag la brten pa tsab kyis sbyar ba'o // 'di bris pa'i bsod nams kyis 'gro kun skye med don rtogs shog // rdzogs s-ho // //

2. [表紙:] Phyi Tsa 7 [奥書:] (5b7) bzhi brgya pa'i rgya cher bshad pa'i bsdus pa'i don / lo tsa ba chen po shākya'i dge slong zhang pa tsab nyi ma grags kyis legs par sbyar pa'o //

上掲1はチャンドラキールティ作『中論註・明句論』に対する註釈である。その奥書では、著者名を示す pa tsab kyis という一節は本文から抜け落ちており、写本下部欄外に補われている。また、表紙にバツァブの著作であることを主張する一文がみられるが、書体から、後代に加筆されたものと判断できる。それゆえ著者問題については疑問が残る。なお同写本の本文は二段組みで記され、中央で分かたれた珍しい体裁をもつ。

(35) 『書簡・甘露の滴』はプトンの目録では目録番号3106に、そしてシャーキャチョクデンの目録では目録番号39に挙げられる。西岡1983:118-119、Kramer 1997:160 (Shākya mchog ldan, Complete Works, vol. 16, 446.7-447.5) を参照。なお本作品の題名はトルンパの著作リスト (Dram Dul 2004:47-49) には含まれていない。

(36) 安田章紀氏のご教示による。第24偈はロンチェンパ著『宗義蔵』(114b4) と『法界蔵註』(186a4-5) に引用される。

(37) ツォンカバ著『道次第大本』Peking ed., Kha, 6a6-7: gzhan yang don dam 'dod tshul gyi sgo nas gnyis su bzhag pa ni rmongs pa ngo mtshar bskyed pa'i rnam gzhang go zhes lo tstsha ba chen po blo ldan shes rab gsung ba ni shin tu legs te. Mimaki 1982: 46-47 (註115)、Napper 1989:740-741 (註316)、御牧ほか1996:236 (註286)、ツルティム・藤仲2001:297 (註2) 参照。

タクツァン著 (sTag gtsang Lo tsā ba Shes rab rin chen) 『宗義全知』(V.3cd). 小林 1993:474-495参照。

(38) シャーキャチョクデン著『甘露の滴註』348.3-6: bdag nyid chen po lo tstsha bas mdzad pa'i spring yig bdud rts'i thigs pa'i rgya cher bshad pa dpag bsam yongs 'du'i ljon phreng zhes bya ba 'di ni / dpal gsang phu ne'u thog gi sde snod 'dzin pa chen po chos kyis rgyal mtshan dpal bzang pos gsol ba btab pa'i ngor bgyis nas / dpal shākya mchog ldan dri med legs pa'i blos / drag po'i lo sa gas nya ba'i snga dro'i cha la grub par sbyar ba'i yi ge pa ni blo bzang chos kyis rgyal mtshan no // //. 同注釈書の著作年代については Caumanns 2006参照。

(39) シェーラプタクは同名異人が多く特定し難い。たとえばロデンシェーラプの四大弟子 (sras kyis thu bo bzhi) のシェーラプワル ('Bre Shes rab 'bar) のもとで出家し、同じく

四大弟子のリンチェンタク (Khyung Rin chen grags) のもとで中観・因明などを学習したシェーラプタク (Chu mig pa shes rab grags pa、『カダム明灯史』221-223頁) がいるが、これを奥書の人物と同定するには至っていない。なお『カダム全集』第26巻にはシェーラプタクなる人物による『現観莊嚴論』の註釈が収録され、全集編者は暫定的にこれをナルタン寺第2代座主 rDo ston Shes rab grags (1127-1185) に同定する。

- (40) シャーキャチョクデンによるロデンシェーラプの伝記 (Complete Works, vol. 16, 446.7-447.5) によると本作品の題名は *tsong ga ru gsum gyi dge 'dun la spring yig* となっている。また『プトン仏教史』(fol. 209b) には、*tsong ka ru gsum gyi dge 'dun la spring yig bdud rtsi'i thig le* とある。
- (41) たとえば中央チベットのウー・ツァン地方は五大翼 (ru chen lnga) からなる。なおトゥケン著『一切宗義』ゲルク派の章 (fols. 60a1-2) には「ルスムと呼ばれるカム地方の地は完全にゲルク派の教えが広まった」(ru gsum du grags pa'i khams kyi sa cha thams cad du dge lugs pa'i bstan pa dar bar gyur to) とあるが、書簡奥書がカムではなくてアムド地方を示唆するので、ここに記される「ルスム」を当該の地に比定するのは困難であろう。
- (42) 『甘露の滴註』327.4参照。
- (43) 『デブン寺古籍目録』1635頁: no. 018550, *rngog lo chen po blo ldan shes rab kyi springs yig bdud rtsi'i thig le zhugs so, dge slong blo ldan shes rab, dpe tshugs*, 2 fols., 60.5×9.5 cm.
- (44) 『デブン寺古籍目録』序文15頁参照。
- (44a) シャーキャチョクデンの次の作品には第12・13偈が引用される。Complete Works, Vol. 4, p.235.
- (45) 『甘露の滴註』(321.3) : *mchod par brjod pa ni / 'jig rten dbang phyug sogs*.
- (46) 鈎括弧内は写本の読みに基づく推定。シャーキャチョクデンによるとこの句は *sdug bsngal* という語で始まっている (『甘露の滴註』322.3: *sdug bsngal sogs tshigs su bcad pa gcig go*)。
- (47) すなわち以下の3点である。Jitāri, *Cittaratnaviśodhanakramalekha*; Atiśa, *Vimalaratnalekha*; Mitrayogin, *Candrarājalekhaka*. Dietz 1984および白崎1992を参照。
- (48) Dietz 1984:61および加納2006:32参照。
- (49) 『宝鬘五十頌』第2偈 d 句: *chos rje bla ma'i gsung mchog thigs tshul brjod*.
- (50) トルンパ著『宝鬘五十頌』は、『カダム全集』第4巻3-6頁に収録される。第1葉上部欄外には「宝鬘五十頌というトルンパの書簡、道次第」(*rin po che'i phreng ba lnga bcu pa zhes bya ba gro lung pa'i 'phrin yig lam rim*) とあり、奥書 (fol. 2b3-4) には「釈迦比丘ロドゥージュンネが親友に宛てた書簡、『宝鬘五十頌』、完」(*shag kya'i dge slong blo gros 'byung gnas kyi / yid 'thun pa'i bshes pa la spring ba rin po che'i phreng ba lnga bcu pa zhes bya ba rdzogs s.hyo*) とある。同書簡の偈は、トルンパ著『教説階梯大論』『教説階梯略論』(『カダム全集』第5巻所収) に類似する表現がしばしばみられる。また、トルンパに帰される著作に *rGyal sras 'jug ngogs* という道次第に関する作品があるといわれるが、これは同書簡の別称である可能性があり、検討を要する。Jackson 1996:237-239参照。『宝鬘五十頌』の研究は別稿を期す。

チベットにおける書簡文学は、網羅的な研究がまだなされておらず、今後の課題である。『カダム全集』にはジャムサルワ（Jam gsar ba Shes rab 'od zer）の書簡も含まれている（第14巻、7-14頁）。

- (51) シャーキャチョクデンの科文には「解説完了の所作」（bshad pa mthar phyin pa'i bya ba）とあるが、ここではわかりやすく「結頌」とした。
- (52) Dietz 1984:103参照。書簡の形式とは、書簡受取人への称賛、呼びかけ、書簡著作のきっかけと目的、内容概説、傾聴の喚起などからなる。
- (53) 『宝性論』I.26に基づく。ロデンシェーラプ著『究竟論要義』（4b3-4）は、如来蔵を主要因（nyer len）、多聞または経典の聴聞を補助因（lhan cig byed pa）、そして「果の三宝」を結果とする。これは彼の7金剛句の第二解釈、「無住处涅槃の輪」の「間接因」に相当する。Kano 2006参照。
- (54) 第12偈後半「この両者は、実体的把握という恐るべき大悪魔の口に入り、〔誤った〕見解という鋭い牙によってしっかりと捕らえられる。」という比喩表現については、トルンパ著『教説階梯大論』（438a3: yod pa'am med pa'ang rung 'ga' zhig rigs pas gnas par smra na mthar lta ba'i gdon chen pos zin pas dbu ma'i lam las thag ring ba nyid do）を参照。
- (55) トルンパも同様に如幻派と無住派という分類方法を批判する。『教説階梯大論』ACIP, SE0070, 437b7-438a1参照。ツォンカバやタクツァンパは同書簡を引用してこの議論に言及する。前掲註37参照。
- (56) シャーキャチョクデンによると、第16-17、19、20偈は『入菩薩行論』第9章（般若波羅蜜章）139-141、33、35偈に各々もとづいているという。『甘露の滴註』337.3-338.3参照。
- (57) 「発心儀軌」という語を註釈してシャーキャチョクデンは次のようにいう。「ここで新たに訳して送られたその発心儀軌は、『入菩薩行論』の所説に沿って著されたもので、ジタリー（Jitari）先生による、誓願と発趣〔の二種菩提心〕を同時に受持する方法であり、律儀受持儀軌と呼ばれる。それについてサキャバンディタの流儀は、中観流の発心とお説きになった。」『甘露の滴註』347.7-348.1: 'dir sems bskyed kyi cho ga gsar du bsgyur nas springs pa de ni spyod 'jug gi lugs ji lta ba bzhin mdzad pa / slob dpon dgra las rnam par rgyal bas smon 'jug stabs gcig tu len pa'i tshul yi **dam** blang chog tu grags pa yin la / de la sa skya paṅḍi ta'i lugs kyis dbu ma lugs kyi sems bskyed ces gsung ngo //（太字は『甘露の滴』本文からの語句を示す。）
- シャーンティデーヴァ著『入菩薩行論』Ⅲ.22-23, I.15、ジタリー著『発菩提心受持儀軌』（*Bodhicittotpādasamādānavidhi*, D3968/4493; P5365/5406）、サキャバンディタ著『三律儀分別論』（*sDom gsum rab dbye*）参照。ジタリーおよびサキャバンディタの著作の各々の該当箇所については、白崎1990:69-70, 83と藤田1988をそれぞれ参照。
- (58) Phyi で始まる整理番号はデブン寺十六羅漢堂に特有のものであり、この整理番号を表紙にもつ写本は、たとえ現在、他の場所に保存されているとしても、本来は十六羅漢堂に所蔵されていたことを示唆する。十六羅漢堂の各写本表紙に記された整理番号とその指示内容については、『デブン寺古籍目録』序文14-15頁を参照。
- (59) リンチェンサンポの著作と各作品の解説については前記註33参照。

- (60) *Rab tu gnas par byed pa don gsal* は2種の写本が収録されている。両写本は奥書にいたるまでほぼ一致するが、全集37-40頁所収写本は行間註を含む。
- (61) 『デブン寺古籍目録』1711頁には十六羅漢堂所蔵写本として同作品が挙げられている。*Shes rab snying po'i rgya cher 'grel gyi bshad pa*, Phyi La 542, no. 019536, dpe tshugs, 4 fols., 60×10 cm.
- (62) 『デブン寺古籍目録』(1401頁)には、同作品の別写本(十六羅漢堂所蔵)が挙げられる。*rGyud bla ma'i don bsdus pa*, Phyi Tsha 41, no. 015801, 'bru tsha, 15 fols, 71.5×9.5 cm.
- (63) 本作品の奥書(409頁: *shag kya'i dge slong blo ldan shes rab kyis sbyar ba // bam po lnga pa'i bshad pa // rdzogs s-hō //*)にタイトルは明記されない。全集編者はこれを *Tshad ma rnam nges kyi bsdus don* と呼ぶが誤りであり、Pascale Hugon氏が調査した結果、当写本は *Nyāyabindutīkā* への註釈であることが判明した。この作品は、トルンパがロデンシュエラプの著作リスト(Dram Dul 2004:47-49)に挙げる、*Rigs thigs 'grel pa dang bcas pa'i bsdus don* に相当する可能性が高いため、暫定的にこのタイトルを用いた。
- (64) 同写本はかつて北京の民族文化宮に所蔵されていた。前掲註23および van der Kuijp 1994:6を参照。
- (65) トルンパの著作については前記註30を参照。
- (66) 『カダム全集目録』は本作品を *mDo sdud pa'i 'grel pa* という略称で呼ぶ。
- (67) 同作品については前記註50を参照。
- (68) チャバの著作については前記註31を参照。
- (69) 同作品は十六羅漢堂所蔵の次の写本と同一作品であろう。『デブン寺古籍目録』1375頁: *dBu ma bden gnyis kyi rnam par bshad pa yi ge nyung ngus gsal bar byed pa*, Phyi Tsa 65, no. 015538, 28 fols.
- (70) 同作品は『カダム全集目録』作品目録箇所(16頁)においては明記されないが、その科文(183頁)および『カダム全集目録』解説箇所(61頁)に記される。
- (71) このタイトルは、直後に収録される『中観莊嚴註』のタイトルに基づいて本稿筆者が想定したものであるが、全集編者は *dBu ma snang ba'i 'grel pa* というタイトルを想定する。写本表紙頁(265頁)には *dBu ma'i yig cha phyas pas byas pa'o* とあり、奥書(428頁)には *dBu ma snang ba'i gzhung gi don rigs pa'i tshul dang myi 'gal zhing blo chung bas kyang bde blag tu rtogs pa byis pa'i 'jug ngos su sbyar ba* とあるが、本作品の正式なタイトルは現れていない。なお、『デブン寺古籍目録』1394頁所掲写本(Phyi Tsa 120, no. 015726, 87 fols)は同作品の別写本とみられる。
- (72) 冒頭の第1葉が欠損しているが、全集所収テキストはその箇所を活字化テキストで補っている。この活字化テキストは恐らく Tauscher の校訂本に基づいたと思われる。なお同写本は Tauscher が校訂に用いた底本とは異なる。本作品は、奥書(129頁)によると *dBu ma de kho na nyid kyi snying po* という別称をもつことがわかる。
- (73) 同作品には二種の写本があり、いずれも十六羅漢堂に所蔵されるが、次の写本は全集に収録されていない。『デブン寺古籍目録』1374頁: *Byang chub sems dpa'i spyod 'jug gi bsdus don*, Phyi Tsa 62, no. 015525, 8 fols.

- (74) 本作品は、『カダム全集目録』においては見落とされている。本作品は、直前の収録作品『入菩薩行論要義』の奥書(143頁5行目)の直後に、頁を改めずに書写されている。作品はそのまま裏面(144頁)に続いているが、第2葉目以降が欠損しており、写本は不完全である。
- (75) 加納2003において筆者は、ロドゥーツンメ著『究竟論了義明示宝灯』(Tezu本、201.6-202.4頁)に引用されるチャパの『宝性論』I.26理解について考察した。この引用の典拠は、原典が欠損していたために久しく不明であったが、今回出版された『カダム全集』所収のチャパの著作『究竟論広註微細義明示』(*Theg pa chen po rgyud bla ma'i bstan bcos rgya cher bsnnyad pa phra ba'i don gsal*)に確認することができたので、以下にその典拠の原文を挙げておく。引用とその原典の間にみられる語句の異同を示すため、一致する語句を太字で示した。『カダム全集』第7巻、228-229頁(fol. 33b7-34a1): de'ang sgrub pa las byung ba'i rigs ji ltar rgyu yin zhe na / 'jig rten las 'das pa'i chos kyi sa bon yin pa'i phyir zhes smos te / thar pa'i cha mthun kyi dge ba'i bag chags 'jig rten las 'das pa'i chos skye ba'i rgyu yin pas so // rang bzhin du gnas pa'i rigs ji ltar rgyu yin zhe na / rang gi tshul bzhin yid la byed pa'i gnas kyi rgyur rtogs par bya zhes sbrel te / yul can tshul bzhin yid la byed pa snang ba myed pa'i shes rab kyi rgyu yin pas yul de bzhin nyid kyang rgyur gdags pa 'am / de rnam par dag pa la brten nas rgyur rtogs par bya zhes sbrel te dri ma sbyangs pas spangs pa thob pas spangs pa'i rgyur bzhag pa'o // des na rang bzhin du gnas pa'i rigs ni rgyu btags pa ba dang bsgrubs pa las byung ba'i rigs ni rgyu mtshan nyid pa yin pas de ltar gcig gi rgyu yin no zhes bya ba'o //
- チャパの同註釈はロデンシェーラプの『究竟論要義』に全面的にもとづきつつ、それを展開させている点で注目に値する。同書については訳註研究を準備している。
- (76) このタイトルは表紙頁(351頁)に現れるが、奥書(537頁)には *mDo sde rgyan gyi bshad pa* とある。
- (77) 同宗義書については、御牧克己教授と共同して校訂本を準備している。
- (78) 同タイトルは表紙頁(87頁)に記された略称であるが、奥書(243頁)にタイトルが記されていないため、本作品の正式名称は不明である。
- (79) Śākyaprabha 作 *Āryamūlasarvāstivādiśrāmaṇerakārikāvṛttiprabhāvati* (P.5627, D.4125) への註釈。
- (80) 同タイトルは全集編者が想定したものであり、写本自体には現れない。奥書の直後(657頁)には、著者 *gZhon nu byang chub* への讃頌が独立作品として附されている。
- (81) パツァブの著作については前記註34を参照。
- (82) これは奥書(203頁)所出のタイトルである。全集編者は表紙頁(29頁)所出のタイトル *dBu ma rtsa ba'i 'grel pa* を用いる。本作品は『明句論』への難語釈であるが、前記註34に述べたように著者問題に若干の疑問が残る。今後、内容を検討した上でパツァブの真作か否かを判定する必要がある。
- (83) 本作品はチャンドラキールティ作『四百論註』に対する科文である。作品冒頭部(206頁: *slob dpon zla ba grags pa'i zhal snga nas mdzad pa bzhi brgya pa'i 'grel pa la bsdu*

- pa'i don ...) 参照。
- (84) 当タイトルは表紙頁(225頁)による。本作品はアク・シェーラプギヤムツォ作『稀書リスト』(11911番)所出の *bya mchad kha pa'i grub mtha' mдор bsdsu* に相当する。本作品については御牧克己教授と共同して校訂本を準備している。
- (85) タイトルは作品冒頭部に現れる。奥書(272頁)にはツォンカパに帰される願文と、木版作成者の名 (*brkos mkhan mkhas pa chu shul gyi gnas pa dpal 'phel*) がみられる。
- (86) 全集編者によるとロドゥーセンゲはチャパの弟子「四獅子」のひとりであり、のちにパクモドゥパ (*Phag mo gru pa rDo rje rgyal po*, 1110-1170) から法を聞いて後者の四大弟子にもなったという。カルマティンレーパ (*Karma Phrin las pa*, 1456-1539) によると、ロドゥーセンゲはサラハ著ドーハー三部作 (*Do hā skor gsum*) に注釈を残した、三部作の教学の大成者であり、その伝統はパル流と呼ばれる (Guenter 1969:15-18参照)。『カダム全集』にはそれら三つの註釈全てが収録されている。
- (87) 全集編者は397-471頁までの38葉からなる写本を一つの作品とみなすが、実際には三つの独立した作品が含まれている。本作品はサラハに帰されるドーハー三部作のうち『平民への歌』 (*dMangs do ha = Dohakoṣagiti*, D.2224; P.3068) に対する注釈である。
- (88) 本作品は、同巻520-568頁所収の作品と同一作品の別写本である。サラハに帰されるドーハー三部作の一つ『王妃への歌』 (*bTsun mo do ha = Dohakoṣopadésagiti*, D.2264; P.3111) に対する注釈である。
- (89) 本作品は、同巻475-508頁所収の作品と同一作品の別写本である。本作品はサラハに帰されるドーハー三部作の一つ『王への歌』 (*rGyal po do ha = Dohakoṣanāmacaryāgiti*, D.2263; P.3110) に対する注釈である。
- (90) 表紙頁(475頁)所出のタイトルは、*rGyal po mdo ha tshigs su bcad pa bzhi bcu pa'i 'grel bshad zla ba'i 'od zer* である。
- (91) 表紙頁(509頁)所出のタイトルは、*bTsun mo mdo ha tshigs su bcad pa brgya cu pa'i bsdu don* である。本作品はサラハ作『王妃への歌』(D.2264; P.3111) に対する科文である。
- (92) このタイトルは奥書(626頁)に現れるが、全集編者は表紙頁(619頁)の表題'*br'el 'jug* をタイトルとみなす。
- (93) 『カダム全集目録』は本作品を *Phar phyin gyi 'grel pa* という略称で呼ぶが、写本奥書(507頁)によると正式なタイトルは *mNgon rtogs rgyan gyi 'grel bshad theg pa chen po la 'jug pa* である。同作品およびその著者 *gNyal zhi* については Sparham 1996 を参照。同作品の活字版は Dharamsala より2005年に出版されている。
- (94) ツェンナクパの著作については前記註32を参照。『カダム全集目録』76頁には、彼の著作である *Grub mtha'i rnam 'byed* (14葉) が全集に収録されているかのように記されるが、実際には含まれていない。
- (95) 同写本影印版(『知識論決択広註善釈要集』)は臨川書店より1989年に出版されている。
- (96) 表紙頁(435頁)には'*Phags pa bsdu pa'i bsdsu don* というタイトルがみられる。
- (97) 同写本影印版は Tezu (Tibetan Nyingmapa Monastery) において1974年に出版されている。その序文には以下のようにある。"The manuscript in the library of Ri-bo-che Rje-drung is a beautiful but faded ancient piece of calligraphy with numerous *bsdu-yig*."

It is unfortunately unsuitable for direct reproduction." すなわちこれは古写本原本ではなく、それを書写して作った複製本の影印版であることがわかる。原本は、Padma bkod の Ri bo che Rje drung 図書館に所蔵されているというが未公開である。

なお同作品は1999年にケンポ・アペイ氏によってカトマンドゥにおいて活字本として出版されたが（Kathmandu: Sakya College, 1999. Vol. 3, 239-565）、これは異読を対照検討した結果、1974年の Tezu 本に基づくものと判断しうる。筆者は、加納2001において同作品の校訂・訳註研究を行い、Kano 2006においてロデンシェーラプに対する批判箇所を回収、分析した。

- (98) 本写本の冒頭の書き出し部分には tshig gi don la ...とあるが、これは作品の冒頭としては不自然である。写本の冒頭3葉が欠損していることは、最初の頁が第4葉から始まっている点によって明らかである。また全集編者は、奥書（316頁）所出の *bDen gnyis rnam bshad tikka dang bcas pa* を同作品のタイトルとみなすが、当該箇所は音節数に制約された韻文であるため、これを正式なタイトルとみなすには疑問の余地が残る。なお『カダム全集目録』86頁にも指摘されるように、同作品は著者不明であるが、同奥書によって rDo rje seng ge の懇願に応じて著作されたことが知られる。同目録（86頁）において全集編者は同作品をアティシャ作『入二諦論』への註釈とみなすが、これは誤りであり、実際はジュニャーナガルバ作『二諦分別論』への註釈である。
- (99) 冒頭（318頁）には、当作品の著作を懇願した者の名前が記される（chos 'di dge bshes gsang phu pas zhush nas mdzad de / dge bshes ston pa kun la re pos dbang bskur mdzad pa'i dus na sngon 'gro'i cho ga mang po yang mdzad）。また、『カダム全集目録』86頁にも指摘されるように、奥書（334頁）には本書がポトワ父子の流儀に属する旨が記される（pu to yab sras lugs yin te）。
- (100) 序文（336頁）から、著者はラデン寺の伝統に従うカダム派の者とみられる。タイトルは表紙（335頁）から知られるのみであり、本文中には確認できなかった。
- (101) 本作品はアティシャ作『入二諦論』（D.3902, P.5298）に対する註釈である。
- (102) これは奥書（527頁）に現れるタイトルであるが、作品冒頭部（412頁）に現れるタイトルは、*Nges don gyi dgongs pa 'dus pa rigs tshogs kyi rgyan 'thad pa rnam par nges pa* である。
- (103) これは表紙頁（595頁）に現れるタイトルである。この表題の筆記者は、本文の筆記者と同一人物であると判定しうるため、これを正式なタイトルとして採用した。奥書（609頁）所出のタイトル（*sDom tshig gsal byed don gsal*）は同作品の略称と思われる。
- (104) このタイトルは本文冒頭部（330頁）に現れるが、奥書（509頁）には、*mDos [= mdo] sde kun las btus pa'i ti ka mdo'nyi ma'i snying po* というタイトルがみられる。内容から判断すると、本作品は『経集成』への註釈ではなくて、シャーンティデーヴァ作『学処集成』への註釈である。
- (105) 本作品はアティシャ作『入二諦論』（D.3902, P.5298）への註釈である。作者はアティシャの弟子のネンジョルバ（Shes rab rdo rje, 11世紀）と思われる。なおこの人物は大ネンジョルバ（Byang chub rin chen, 1015-1077）とは別人である。『カダム明灯史』162-163頁参照。
- (106) 『カダム全集目録』の解説文中（87頁）には同書が全集第19巻所収作品として言及される



- が、実際には第22巻に収録されている。目録当該箇所解説されるように、同書の冒頭には中観思想の相承譜が記され、その末尾には「彼（自らの師）が私シュヴァラ・ラトナにお授けになった。以上、相承譜。」(des bdag shwa ra rad na la gngang ste rgyud pa'i rim pa'o、7頁)とあり、ここに著者名が明記される。この相承譜(6-7頁)は、第29巻所収 *dBu ma chen po'i man ngag nyam len bsgom pa'i lde mig* の冒頭部(142-145頁)に示される相承譜とかなりの程度重なっている。dBang phyug rin chen (= Shwa ra rad na) という名は、gZhon nu rin chen の師と同名である。『カダム全集』第21巻509頁参照。
- (107) 本作品は全文偈頌よりなる。奥書(38頁)は本作品を'od zer snying po と呼ぶ。表紙頁(29頁)に記されるタイトル(*dBu ma la brten pa'i zhal gdams zla zer snying po*)は本文の筆者とは別人の手によるものであり、その書体から、後代に加筆されたものと思われる。
- (108) 奥書には、「サツジャナたちの流儀」(bram ze sa rdza dag gi lugs)を支持する旨が記される。「サツジャナ流」はチベットにおける『莊嚴經論』の解釈伝統の一つとして知られているが、その思想体系は依然として不明であり、同書はそれを解明する手がかりとなるだろう。加納2006:33参照。
- (109) 本作品は『現観莊嚴論』に対する註釈である。奥書にタイトルが見あたらないため、表紙(17頁)に記されるタイトルをここに挙げた。全集編者は本作品を *mNgon rtogs rgyan 'grel pa* と呼ぶ。奥書(388頁)には、「ツァン地方の善の源たるパツァブ寺にてシェーラブを名の末尾に持つ沙門たる私が編纂した」(gtsang dge ba'i 'byung gnas pa tshab sgon [= dgon] pa ru // shes rab mtha [= mtha'] can dge sbyong bdag gis bstus [= btus] / /)とあるが、具体的な著者名は不明である。
- (110) 『カダム全集』23巻3頁において全集編者が指摘するように、同作品の奥書に著者名が明記される。同601頁(fol. 71a7-9): de dag dgongs 'grel mngon rtogs rgyan // rje btsun byams pas mdzad pa la // de la seng ge bzang po yis // rnam par 'grel du mdzad pa 'di // gcig nas gnyis su brgyud pa'i // gdmas pa mnga' ba a ti sha'i // sras chen khu rngog 'brom gsum ste // dam pa bzhi'i slob ma ni // dge bshes nam mkha' bla ma yin // de la prad dznya ke tu yis // gzhung dang gdams par bcas pa gsan // de la chos kyi blo gros kyis // mnyes par byas nas nyam du blangs // de la zhang 'bal tshad ma bas // gsan nas nges shes shin du skyes // dad par gyur nas ma bslad par // gdams pa'i bzhed lugs yi ger bris // bsre ru phangs pas ma bslad zhes // phyi ma rnams la'ang de skad du // yang yang gsung zhes slob dpon gsung // de skad thos nas bris pa lags //。本著作は別の写本が同29巻337-492頁に収録される。
- (111) 奥書には、「善知識 rJe lung pa の教えのとおりに記した。以上は善知識の御著作中に含まれず、大衆のまゝで詳細に説法されたときに著されたものである」とある。『カダム全集』第24巻525頁および『カダム全集目録』93頁参照。
- (112) 全集編者は、この著者を Bo dong Phyogs las rnam rgyal (1376-1451) に同定しようと試みる。『カダム全集目録』94頁参照。
- (113) 全集編者は、この著者をナルタン寺第2座主の Shes rab grags (1127-1185) と同定しようと試みる。なお奥書は行間註(mchan) 作者を rDo rje dbang grags とする。『カダム全

集』第26巻401頁および『カダム全集目録』94頁参照。

- (114) 奥書には次のようにある。『カダム全集』第27巻195頁: 'di thams cad mkhyen pa gnyis pa grags pa rgya mtsho'i zhabs gdul [= rdul] spyi bos len cing lung rigs kyi chos la blo gros cung zhid rgyas pa ldum bu ba bsod nams dpal gyis 'tshal gung thang gi gtsug lag khang chen por sbyar ba ni re shig rdzogs s-ho //。『カダム全集目録』95頁参照。
- (115) 同作品は The Collection works of the ancient Sa Skya pa Scholars (Kathmandu, 1999. Vol. 4, 1-520) に収録されるササン・マティの著作（活字本）と同一作品である。全集所収写本末尾の欠損部分は、上記活字本の518.5-519.3によって補うことができる。
- (116) 奥書には、Zhang rin po che (g.Yu brag pa brTson 'grus grags pa, 1123-1193) の弟子 Ti shri ras pa (Shes rab seng ge, 1164-1236) の甥である Kun dga' rgayl mtshan、そして rGyal ba bzang po によって請われて本書が著されたとある。そのため著者は12-13世紀のカギュー派とつながりを持つ人物と推定される。奥書については『カダム全集』28巻422頁および『カダム全集目録』94-95頁を参照。
- (117) 全集編者は著者を dBang phyug rin chen とするが、奥書によると Yon tan dbang phyug の著作であることが知られる。『カダム全集』第28巻503頁参照。
- (118) このタイトルは作品冒頭部において確認される。『カダム全集』第28巻428頁参照。
- (119) これは表紙に記されるタイトルである。奥書（全集29巻179頁）所出のタイトル Nyams myong bsgom pa'i lde mig は、略称とおもわれる。全集編者は同作品のタイトルを Theg pa chen po dbu ma'i nyams len bsgom pa'i lde mig とするが、奥書所出のタイトルを正式名称とみなすべきである。奥書において同書は bTsun pa dBu ma pa に帰されるが、これは Shes rab 'bum (13世紀) の通称と一致する。
- (120) これは奥書（全集29巻330頁）に記されるタイトルである。全集編者はこれを *bsTan bcos mngon par rtogs pa'i rgyan gyi lus mdzes par byed pa* とする。
- (121) 『カダム全集』29巻333頁において本作品は bSod snyoms pa Rin chen rgyal mtshan の著作とされるが、一方で同156頁においては著者不明とされており、記述に矛盾がみられる。本作品は同23巻461-602頁に別写本が収録され、その奥書には著者名が明記され、それによって著者は Zhang 'Bal Tshad ma pa であることが知られる。同23巻601頁参照。
- (122) この作品に続いて、『カダム全集目録』の解説文中（107頁）には 'Dul ba 'od ldan gyi tikka [デプン十六羅漢堂 Phyi Wa, 52] が言及されるが、全集自体には収録されていない。

（本稿は日本学術振興会科学研究費による研究成果の一部である。）

<キーワード> ゴク・ロデンシェーラプ、『書簡・甘露の滴』、デプン寺所蔵古写本、『カダム全集』